

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
自然科学Ⅰ	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:生物学および化学的視点で、ヒトを含む生命現象について理解する。生物・化学の基本的な知識を身に着けることによって、医療・看護の専門科目の理解を深める。 目標:①生体内の反応とその機能が理解できる ②病態を理解する科学的知識を身に着けることができる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	生命体のつくりとはたらき	①生命と生物学 ②看護・医学の基礎科学としての生物学 ③細胞の構造と機能	
2	／ ()	生体維持のエネルギー①	①生体内の化学反応 ②化学反応とは ③生命を維持するためのエネルギー	
3	／ ()	生体維持のエネルギー②	①解糖系 ②TCA回路 ③電子伝達系	
4	／ ()	細胞の増殖とからだのなりたち	①細胞分裂 ②細胞の分化とからだのなりたち ③細胞の老化	
5	／ ()	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	①遺伝の法則と染色体 ②遺伝情報の担い手ーDNA ③DNAの複製 ④遺伝情報の伝達ーRNA ⑤タンパク質の合成＝翻訳	
6	／ ()	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	⑦変異 ⑧ヒトの遺伝	
7	／ ()	個体の調節	①ホメオスタシス ②各器官系のはたらき ③神経性相関 ④液性相関	
8	／ ()	刺激の受容と行動	①神経系における情報処理の特徴 ②神経系の情報伝達③神経系の系統的発達 ④効果器のはたらき ⑤行動 ⑥記憶	
9	／ ()	体液①	①体液の区分と組成 ②電解質 ③水の動態	
10	／ ()	体液②	無機質と微量成分	
11	／ ()	体液③	①酸・塩基とは ②アシドーシス・アルカローシス	
12	／ ()	無機化学	溶液と浸透圧	
13	／ ()	有機化学	アミノ酸とタンパク質	
14	／ ()	有機化学	合成高分子化合物	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 基礎分野 生物学 (医学書院)				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
自然科学Ⅱ	講義	1年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:物理法則のものの見方、考え方の基礎を学ぶ。日常生活で身近な現象について物理的に理解することで効果的で安全安楽な看護技術の提供につなげることができる。				
目標:①日常使われている物理量と単位について理解できる ②代表的な物理法則を理解できる ③物理学がどのように看護・医療に応用されているかを理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	運動と力	看護における自然科学(物理学)の必要性物理を学ぶために	
2	/ ()		物理を学ぶために 指数、数詞の接頭語等運動と力	
3	/ ()	力と仕事①	自由落下 力と加速度、重力 力のつり合い	
4	/ ()	力と仕事②	力の合成・分解	
5	/ ()	力と仕事③	力のモーメント 仕事とエネルギー	
6	/ ()	エネルギー	エネルギー 圧力	
7	/ ()	圧力	圧力 浮力 水圧	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:講師配布資料 看護学生のための物理学 6版				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間
生活科学		講義	1年次後期	1単位／15時間
目的:日常生活および看護場面における「なぜ？」を科学的に考察し、生活の質を向上させる。また、生活科学という学問を通して、看護学生の科学的リテラシーの向上を目指し、それぞれの看護学領域の学びに繋げることができる。 目標:①日常生活および療養生活をより良くするための科学的な考察ができる ②看護技術・医療行為の科学的根拠について正しく理解できる				外部講師
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	界面活性剤の謎	①界面活性剤とは ②表面張力とは ③汚れを効率的に落とすには	
2	/ ()	紙おむつの謎	①吸水ポリマーとは ②どのぐらい水を吸うのか	
3	/ ()	錯視の謎	①錯視とは ②効果的に見せるテクニック ③陰影の効果 ④カラーが持つ効果	
4	/ ()	洗濯物の謎	①どのように風を通すか ②乾燥の3要素	
5	/ ()	静電気の謎	①電気とは何か ②直流・交流 ③感電	
6	/ ()	ホコリの謎	①ホコリの正体 ②落下菌の培養	
7	/ ()	圧力の謎	①高気圧?低気圧? ②無重力になると… ③さまざまな圧力の単位	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:講師資料				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
社会学		講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的: 社会の変化に伴い日常生活も変化しているその変化が、健康や看護と社会がどのように かかわっているか保健医療の観点から理解し、社会人、職業人としての関わり方の 基本的な考え方を学ぶ					
目標: 1.人間が社会的な存在であることを理解する 2.家族と地域社会の変容過程とその将来像を理解する 3.家族と地域社会の中に働くメカニズムを理解する 4.自らの社会観を問い直し、新しい社会関係を作ることとは何かを理解する 5.信頼・安全・安心を社会的に構築するために必要なことを、自身の言葉で表現できる					
評価方法: 1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	社会学の基礎概念	①行為②社会的行為③相互行為④社会関係 ⑤地位一役割⑥集団組織⑦ネットワーク制度 ⑧グローバルシステム ⑨社会変動とグローバリゼーション		
2	／ ()	社会学的視点とモデル	①合意とコンフリクト②構造と解釈③構造と過程 ④意図せざる結果⑤モデルの応用に向けて		
3	／ ()	保健医療と社会学 社会調査の理論と技法	①社会関係資本②公衆衛生と社会医学 ③病者の視点と社会視点④社会システムとしての医療 ⑤保健医療と社会学⑥社会調査 ⑦量的調査と質的調査⑧量的調査の企画と実施 ⑨質的調査の方法 ⑩社会調査の理論		
4	／ ()	健康・病気と社会	①健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり ②健康・病気の新しい見方・とらえ方		
5	／ ()	健康・病気と社会	①健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり ②ストレスとストレス、対処そして健康・病気		
6	／ ()	健康・病気の社会格差	①社会格差と平等 ②健康・病気の社会格差の諸相 ③社会格差による健康格差の発生のメカニズム ④社会格差是正の取り組みと可能性		
7	／ ()	「働き方」「働かせ方」と健康・病 気	①「働き方」と「働かせ方」 ②「働き方」と「働かせ方」による健康への影響 ③健康に与える職場の要因 ④仕事と生活の調和		
8	／ ()	健康・病気行動と病経験	①健康と病気行動②病経験 ③病の語り④ヘルスリテラシー		
9	／ ()	患者－医療者関係とコミュニ ケーション	①コミュニケーション ②患者－医療者関係とコミュニケーション ③わが国の患者－医療者関係とコミュニケーション ④患者アドボカシー⑤患者と医療者の協働		
10	／ ()	保健医療の専門職	①保健医療職種 ②専門職論 ③専門職論の変容④看護職論の現在 ⑤保健医療職種間の協働に向けて		
11	／ ()	性・ジェンダー・家族と保健医 療	①性別・性差とは ②ジェンダーとケア役割 ③ジェンダーと健康④結婚と家族 ⑤保健医療からみた結婚と家族 ⑥男女共同参画社会の形成に向けた取り組み		
12	／ ()	地域社会と保健医療 保健医療制度	①コミュニティと地域 ②ソーシャルサポートと社会関係資本 ③ヘルスプロモーションにおける地域 ④地域の保健力 ①福祉国家と社会保障制度 ②保健医療システムと保健医療制度 ③わが国の保健医療制度 ④わが国の保健医療制度の変容 ⑤わが国の保健医療制度をめぐる課題		
13	／ ()	保健医療の現代的変化の位相	①保健医療システムの現代的変化 ②保健医療システムの変容 ③わが国の医療システムの特徴 ④わが国の医療システムの課題		
14	／ ()	ケアと医療:新しい地平を求め て	①ケアと医療②ケア論 ③ケア論の歴史的意味 ケア論の社会的意味 ④ケアと医療との新たな関係性に向けて		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト: 社会学					
備考:					

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
情報科学	講義	1年次前期後期	1単位／30時間	外部講師
目的：思考力と判断力を、問題解決能力を高めるために意図的に情報通信技術(ICT)の活用ができる。				
目標：ワードプロセッサ、表計算、画像処理、プレゼンテーションソフトの操作等ができる				
評価方法：1. 筆記試験（90％） 2. 授業への参加態度・状況（10％） 1 とを総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	情報の定義と特徴	①情報とは ②情報の特性 ③情報の認知と意思決定 ④情報の伝達とコミュニケーション	
2	／ ()	情報化社会	①情報化社会の成立 ②情報が社会で求められること	
3	／ ()	保健医療と情報	①医療における情報 ②エビデンス情報に基づいた保健医療 ③ヘルスプロモーションと情報	
4	／ ()	看護とICT	①看護における情報 ②情報化社会と看護 ③ICTを利用する能力(コンピテンシー) ④必要な情報を入手し、理解し、評価して活用する方法	
5	／ ()	医療における情報システム	①医療における情報システム ②病院情報システムと記録の仕方 ③保健医療福祉のネットワーク	
6	／ ()	情報倫理と医療倫理	①情報倫理 ②医療倫理	
7	／ ()	患者の権利と情報	①患者の権利と自己決定への支援 ②診療情報の開示	
8	／ ()	個人情報の保護	①医療・看護における個人情報 ②患者の権利③情報の利用の仕方	
9	／ ()	コンピューターリテラシーとセキュリティ	①コンピューターリテラシー ②ネチケット	
10	／ ()	情報のリソース	①インターネット ②電子カルテ、遠隔システム ③動画視聴 ④分析 ⑤文献検索	
11	／ ()	調査によるデータ収集方法 統計データの種類とまとめ方	①調査とは ②調査の目的を明確化する ③調査の方法を決定する ④分析枠組みと文政期手法を決定する ⑤調査を実施してデータを収集する ①質的データ ②量的データ ③質的データのまとめ方 ④量的データのまとめ方 ⑤統計データのグラフ表示	
12	／ ()	Excelによる統計解析	①データの入力形式と表示方法 ②データの種類と単純計算 ③正規分布の特徴～多変量解析	
13	／ ()	文字情報の整理	①対象と目的に応じた文字情報整理のポイント ②論文の書き方の基礎 ③ワープロソフトの使い方	
14	／ ()	情報の発表とコミュニケーション	①口頭発表とポスター発表 ②インネットにおける発表とコミュニケーション	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト： 講師資料				
備考：				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護英語	講義	1年次 後期	1単位／30時間	外部講師
目的:看護の場面での英語表現と語彙を学び、実際の看護の場面で使えるようにする。 目標:実際の看護の場面で、英語による簡単なコミュニケーションをとれるようになる。 医療や臨床で使う英語を理解し、使えるようにする。				
評価方法 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1		導入		
2		医学用語の効果的な学び方		
3		接尾語	① 症状 病院受付表現	
4		接尾語	② 接尾語 診断	
5		接尾語	③ 手術 風邪の問診	
6		語幹	① 骨格系 捻挫のアセスメント	
7		語幹	② 神経・感覚器系 バイタルサイン	
8			前半のまとめ	
9		語幹	④ 消化器系	
10		語幹	③ 呼吸器・循環器系 血液・尿検査	
11		語幹	⑤ 尿生殖器系	
12		語幹	⑥ 色、細胞 胃潰瘍の診察	
13		接頭語	① 感覚器系	
14		接頭語	② 方向・位置関係 糖尿病の診察	
15	11/4(金)	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 基本の101語を組み合わせる学ぶ医学英語(日本看護協会出版会)				
備考:				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
文化人類学	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的:人間が社会的存在として、どのような社会関係や制度を発達させてきたかについて学ぶ。人間と文化、個人・家族、宗教、健康、死について考える				
目標:文化・通過儀礼・宗教・世界観・死を通して人間のつながりを学び、一個人としての自身を考える原点とする				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	文化と人間	①文化人類学における文化 ②文化の諸相	
2	／ ()	文化と人間	①文化人類学はどのような学問か ②現代社会と文化人類学の現在	
3	／ ()	文化人類学と質的研究	①質的思考から質的研究へ ②文化人類学とエスノグラフィー	
4	／ ()	文化人類学と質的研究	③文化人類学とエスノグラフィー ④エスノグラフィーの現代的意義	
5	／ ()	個人・家族・コミュニティー	①個人と社会 ②家族	
6	／ ()	個人・家族・コミュニティー	③家族をこえたつながり	
7	／ ()	人生と通過儀礼	人生と通過儀礼と境界倫理 ライフサイクルと境界倫理	
8	／ ()	人生と通過儀礼	③儀礼の構造 ④通過儀礼とコミュニタス ⑤なぜ通過儀礼を経なければ大人になれないのか	
9	／ ()	宗教と世界観	宗教を考みる 文化人類学の分析枠組みを通して宗教を考える	
10	／ ()	宗教と世界観	②文化人類学と儀礼研究 ③トランスナショナル時代における宗教と世界観	
11	／ ()	健康・病気・医療	①健康と文化 ②病気と治療	
12	／ ()	健康・病気・医療	③医療の体系 ④環境と健康	
13	／ ()	人間と死	「いのち/生命」の多様性 誕生と死における人のいのち/命	
14	／ ()	人間と死	いのち/生命と身体 まとめ	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
家族論		講義	1年次後期	30時間	外部講師
目的:家族の概念、現代社会における家族(特徴・問題)、家族看護の役割について学ぶ					
目標:看護職として家族に向き合うための姿勢を身につける。 家族看護の基本的な考え方を学ぶ。					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	「家族」とは	なぜ家族論		
2	／ ()	「家族」とは	家族とは？ (グループワーク)		
3	／ ()	「家族」とは	何が家族であるのか ないかの要因		
4	／ ()	「家族」とは	日本家父長的家制度と現代		
5	／ ()	「家族」とは	家父長制の弊害		
6	／ ()	「家族」とは	家父長制に対抗するもの		
7	／ ()	「家族」とは	家父長制と語り合う家族		
8	／ ()	グループワークで理解を深める	様々な家族 障害と家族		
9	／ ()	グループワーク	障害と家族、障害家族関係の様々な型		
10	／ ()	グループワーク	家族関係の変容		
11	／ ()	グループワーク	離れて暮らすことの意味		
12	／ ()	グループワーク	〃		
13	／ ()	グループワーク	新しい家族の在り方の可能性		
14	／ ()	まとめ	新しい家族 人を結びつけるのは何か		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
講師からの配布資料					
備考:					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
論理学	講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:概念の形成や命題(判断)および推理の論理的な組み立てから、科学的思考に到達するための論理的思考について学ぶ。				
目標:①論理的思考について理解できる ②論理的思考を活かした文章の構築ができる ③論理的思考を活かした文章表現を活かしつつレポートが書ける				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	「開講の言葉」文	①授業の手順 ②作文例とその分析 ③思考の単位としての文	
2	／ ()	文	④論評の倫理 ⑤文の七原則 練習問題	
3	／ ()	段落	①「論評」の意義 ②「段落」の意義 ③教材の分析・批判	
4	／ ()	段落	④批判を発想する方法 ⑤構造図 ⑥段落意識の欠如	
5	／ ()	段落	⑦書き出し部分の段落 ⑧段落内部の構成 ⑨段落意識の強まり	
6	／ ()	語句	①「私の看護観」の分析	
7	／ ()	語句	②正確・明瞭な語句	
8	／ ()	テスト	①なぜ読むべきか	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 講師資料				
備考:				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
心理学	講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:人間の行動・情緒・性格や基本的な人間関係の知識を習得する。また、自己及び他者の心理について学ぶ				
目標:①心理学の研究対象や研究方法およびその変遷について理解する ②さまざまな心理現象の仕組みや特徴について理解できる ③患者及び援助者の心理を理解したうえで看護に活かすことができる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	心理学の問題	①心理学の発展 ②心理学の研究方法	
2	／ ()	知覚の心理	①知覚の成立 ②知覚の種類 ③知覚研究の応用	
3	／ ()	記憶の心理	①記憶の諸相 ②忘却の心理 ③記憶のくふう	
4	／ ()	思考・想像・言語の心理	①思考・想像の心理 ②言語の心理	
5	／ ()	知能の心理と知能検査	①知能の心理 ②知能検査	
6	／ ()	学習の心理	①学習の心理 ②練習の心理	
7	／ ()	感情・情緒・情操の心理	①感情の諸相 ②感情・情緒の異常	
8	／ ()	適応の心理	①人と環境 ②適応・不適応 ③適応の機制	
9	／ ()	性格の心理と性格検査	①性格の形成 ②性格の理解	
10	／ ()	集団の心理	①集団の形成と機能 ②集合行動	
11	／ ()	発達の心理	①発達の原理 ②発達段階の特徴	
12	／ ()	カウンセリング	①カウンセリングの意義	
13	／ ()	カウンセリング	②カウンセリングの方法	
14	／ ()	医療と心理学	①医療と心理学の役割 ②患者の心理 ③看護理論と心理学	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 基礎分野 心理学 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
論理的思考	講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:物事を結論と根拠に分け、その論理的なつながりを捉えながら物事を理解することができる 目標: ①論理的思考を活かした文章の構築ができる ②論理的思考を活かした文章表現を活かしつつレポートが書ける				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	論理的思考法	論理的思考とは	
2	／ ()	自分の考え方の伝え方	事例	
3	／ ()	原因の特定と問題解決	事例	
4	／ ()	演繹法	事例	
5	／ ()	帰納法	事例	
6	／ ()	論理的思考の実践	事例	
7	／ ()	論理的思考の実践	事例	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 講師資料				
備考:				

授業科目名の区分		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人間関係論		講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:看護を含めた保健医療の援助は、援助を必要とする人と、援助をする専門職との密接な人間関係の上に成り立つことを理解する					
目標:人間関係の知識とスキルを高める。					
評価方法:1.筆記試験 2.授業への参加態度・状況 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	人間関係の中の自己と他者	人間関係論とは 自己認知・対人認知		
2	／ ()	対人関係と役割	対人関係の成立、維持と崩壊 対人葛藤と対処 社会的役割		
3	／ ()	態度と対人行動	態度と態度変化 説得的コミュニケーション 攻撃、援助		
4	／ ()	集団と個人	集団の特性 集団での課題遂行、問題解決と意思決定 リーダーシップ		
5	／ ()	カウンセリングと心理療法	カウンセリング・心理療法の理論とスキル 看護への応用		
6	／ ()	保健医療チームの人間関係	医療におけるチームと看護師の役割 チームワークとエラー チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防 多職種連携に向けて		
7	／ ()	患者を支える人間関係	患者・医療関係 患者・看護師間の相互作用の評価 様々な看護場面における人間関係		
8	／ ()	地域をつくる人間関係	個人を取り巻く人間関係 ピアサポートを通じた人間関係 人間関係の集合としての地域の力 人間関係の力が最大になる社会		
9	／ ()	コミュニケーションの基礎	言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション		
10	／ ()	傾聴技法	うなずきと相づち、繰り返し、要約、共感		
11	／ ()	自己決定の支援	指示、助言、コーチング		
12	／ ()	患者理解と言葉かけ	聞くと聴く、対決と受容、励ましと共感 ティーチングとコーチング		
13	／ ()	患者やスタッフとの人間関係	好き嫌いの人間関係、対人認知の偏り 自己開示とフィードバック 患者と医療関係者		
14	／ ()	チームワークと多職種連携	チーム医療と多職種連携 理念と目標管理 患者との関係と看護師のモチベーション		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 (医学書院)					
備考:					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
教育学	講義	3年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:社会の本質、目的、方法、評価を学び、看護・医療との関連の理解を深める。 教育制度、現代教育の課題について学び、専門職業人として教育の意義を学ぶことを目的とする 目標:教育と子どもの活動、人間の生活との関係、教育が子どもの成長や社会の発展に 対して、どんな役割を持つかについて考える				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	社会の中の看護と教育	①社会・文化・人間形成 ②機能化された社会における教育と看護 ③新しい世代をつくりあげるしくみ	
2	／ ()	教育とはなにかー「教育の概念」	①日常用語としての「教育」 ②形成と教科の世界 ③子どもを価値とする「教育」 ④自発的従属 ⑤教育の基盤としてのケア	
3	／ ()	教育の対象ー子ども観と発達	①子ども観の形成とその背景 ②発達という見方 ③権利主体としての子ども	
4	／ ()	社会変動と教育	①大衆社会の成立と変容 ②大衆消費社会と情報化社会 ③少子化動向	
5	／ ()	教育の組織化ー学校	①学校の役割と機能 ②文化伝達としての学校方式 ③日本の学校④現代学校の課題	
6	／ ()	教授一人を教えるということ	①コミュニケーションとしての教えること ②学ぶ・教えるということ ③省察 ④「教える-学ぶ」の関係の中でおきること	
7	／ ()	訓育ー他者とのかかわりを導く 養護ー教育の受け手を見まもる	①かかわり合うことの困難②訓育とはなにか ③かかわりを導く技法④訓育の新しいかたち ⑤養護とは⑥学校における養護の機能 ⑦学校における養護の過程 ⑧今日の学校における保健室の存在と役割	
8	／ ()	発達ー教育を受けて成長する	①発達を支える・促す②「教育による発達」の理論 ③発達における身体と感情④発達と教育の未来像	
9	／ ()	学びの場ー学校と家庭	①学びの場＝学校という規範②家族と学校の関係 ③学校に通うという意味の変化 ④「学校に行かない子ども」をどう考えるか	
10	／ ()	教育の目標と評価 教育のメディアー教育をデザインする	①評価と目標の関係 ②現在の目標・評価論 ③パフォーマンス評価 ④評価の開発と実践 ⑤メディアと教育 ⑥メディアとしての教師 ⑦学習者どうしのかかわり ⑧学習を取り巻く物と空間	
11	／ ()	教育の担い手	①「専門職」としての学校教員 ②教員の仕事の本質 ③現代教育改革と学校教員 ④養護教員に学ぶ学校教員の専門性と専門職性	
12	／ ()	教育の場をつくるしくみ キャリア教育	①発達保障の在り方を誰が決めるのか ②教育政策のあり方を誰が決めるのか ③教育要求はどのように組織化されるのか ④政策の方針はどのようにかえられるのか ⑤変貌する若者のキャリア ⑥キャリア教育にできること ⑦キャリア教育をつくる ⑧これからのキャリア教育	
13	／ ()	ジェンダーとセクシュアリティ 特別ニード教育	①ジェンダー、セクシュアリティとはなにか ②ジェンダーと教育の課題 ③セクシュアリティと教育の課題 ④性の多様性 ⑤障害・看護・教育 ⑥特別ニード教育・インクルーシブ教育とはなにか ⑦障害とどう向き合うか ⑧発達障害に対する特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	
14	／ ()	生涯学習 シティズンシップ教育	①生涯学習の必要性 ②成人はどこで学ぶのか ③成人はどのようにして学ぶのか④看護師の生涯学習 ⑤公共性の必要⑥シティズンシップ教育とはなにか ⑦政治的リテラシーの教育 ⑧「よき市民」から「無知な市民へ」	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:教育学(医学書院) 現場からの教育再生(アルリーフ)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
体育	講義	3年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的： 運動・スポーツ実践をライフスタイルとして確立するための基礎的運動技能や環境づくりのための基礎的な能力を養うとともに、高齢者等に向けた運動実践を学ぶ。				
目標：①生活の中で健康のとらえ方、保持増進・疾病予防、精神の健康などを理解し、看護学学習の基礎として活用できる。（レクリエーション含む） ②運動と健康の関連を理解し、身体を動かすことで心身の育成を促すことができる ③高齢者への運動実践の方法を自ら考え、工夫することができる。				
評価方法 1. 筆記試験 2. 実技・演習の参加態度・状況 1と2を総合的に判断する				
回	月/日（曜日）	授業内容	内容	担当者
1		心身の健康	健康のとらえかた	
2		運動と健康	関節運動とストレッチ	
3		高齢者への運動実践	高齢者に向けたトレーニング・ストレッチ	
4		高齢者への運動実践	ボッチャ	
5		高齢者への運動実践	ボッチャ	
6		高齢者への運動実践	高齢者に向けたレクリエーション	
7		心の健康と実践	実技 ズンバ	
8		心の健康と実践	実技 ズンバ	
9		心の健康と実践	実技 ダンス	
10		心の健康と実践	実技 ダンス	
11		健康	健康について	
12		心の健康	心の健康について	
13		レクリエーションの実践方法	レクリエーション	
14		レクリエーションの実践方法	レクリエーション	
15		テスト		

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
生化学	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的: 人体の構成成分と代謝や生体の防御機構について学ぶ 遺伝情報のしくみと役割について学ぶ				
目標: ①生体を構成する物質を理解する ②恒常性を維持するメカニズムを理解し、メカニズムの破綻より引き起こされる疾病を理解する				
評価方法: 1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	生化学を学ぶための基礎知識 糖質	①生化学の歩みと役割 ②化学の基礎知識 ③細胞の構造と機能 【糖質】 ①糖質とは ②糖質の種類 ③単糖の構造と性質 ④二糖の構造と性質 ⑤多糖の構造と性質	
2	／ ()	脂質 タンパク質	【脂質】 ①脂質とは②脂質の種類③脂質の役割④脂質各論 ⑤リポタンパク質 【タンパク質】 ①タンパク質とは②アミノ酸③タンパク質の構造④タンパク質の分類	
3	／ ()	核酸 水と無機質	【核酸】 ①核酸とは②塩基 ③ヌクレオシドとヌクレオチド④DNAとRNAの構造 【水と無機質】 ①水とは②水の出入り③酸塩基平衡④無機質とは	
4	／ ()	血液と尿 ホルモンと生理活性物質	【血液と尿】 ①血液 ②尿 【ホルモンと生理活性物質】 ①ホルモンとは②ホルモンの種類と作用機序 ③ホルモン各論④内分泌疾患⑤サイトカイン	
5	／ ()	代謝のあらまし	①代謝とは ②消化・吸収された栄養素の体内での代謝	
6	／ ()	酵素	①酵素についての基礎知識 ②酵素反応 ③酵素反応の阻害 ④酵素分類 ⑤酵素の応用	
7	／ ()	ビタミンと補酵素	①ビタミンとは ②ビタミンの種類と生理作用	
8	／ ()	糖質代謝	①糖質代謝のあらまし ②グルコースの分解 ③糖新生 ④ペントースリン酸回路 ⑤グリコーゲンの代謝 ⑥ガラクトース、フルクトース、マンノースの代謝	
9	／ ()	脂質代謝	①脂質の消化と吸収 ②脂肪酸の分解 ③ケトン体の産出と利用 ④脂肪酸の生合成 ⑤トリグリセリドの生合成 ⑥コレステロールの生合成と利用 ⑦エイコサノイドの生合成	
10	／ ()	タンパク質代謝	①タンパク質代謝のあらまし ②タンパク質の消化と吸収 ③αケト酸を経由するアミノ酸の利用 ④アミノ酸からの含窒素化合物の合成 ⑤アミノ酸からほかのアミノ酸の合成	
11	／ ()	核酸代謝	①核酸の合成と分解 ②ヌクレオチドの合成 ③ヌクレオチドの分解	
12	／ ()	ポルフィリン代謝	①ポリフィリンとは ②ヘムの生合成 ③ヘムの分解 ④ビリルビンの代謝	
13	／ ()	代謝の異常	①骨粗鬆症 :骨代謝異常 ②糖尿病 :グルコース代謝異常 ③脂質異常症 :脂質代謝異常④高尿酸血症・痛風 :核酸代謝異常	
14	／ ()	遺伝情報 先天性代謝異常症	【遺伝情報】 ①遺伝情報とは②複製③転写④翻訳 ⑤翻訳後のタンパク質プロセッシングと細胞内移行⑥DNAの損傷と修復 【先天性代謝異常症】 ①先天性代謝異常症とは②先天性代謝異常症各論	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能2 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床微生物	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:微生物が人体に侵入し体内でどのような反応や現象が起こり、感染から人体を守っているのか、感染症の予防や対処法について学ぶ				
目標:①各種微生物の性状と感染様式、発症機序、感染病態を理解する ②感染症の予防・治療を理解する ③感染対策を看護援助に活かす方法が理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	微生物と微生物学	①微生物の性質 ②微生物と人間 ③微生物学の対象と目的 ④微生物学のあゆみ	
2	／ ()	細菌の性質 真菌の性質	【細菌】 ①細菌の形態と特徴②培養環境と栄養 ③細菌の遺伝④細菌の分類⑤常在細菌叢 【真菌】 ①真菌の形態と特徴②真菌の増殖 ③真菌の分類と命名法④栄養と培養	
3	／ ()	原虫の性質 ウイルスの性質	【原虫】 ①原虫の特徴と基本構造②病原原虫の種類 【ウイルス】 ①ウイルスの特徴②ウイルスの構造と各部分の機能 ③ウイルスの増殖④ウイルスの分類	
4	／ ()	感染と感染症	①微生物感染の機構 ②感染の成立から発症・治癒まで ③細菌感染の機構④真菌感染の機構 ⑤原虫感染の機構⑥ウイルス感染の機構	
5	／ ()	感染に対する生体防御機構	①自然免疫のしくみ ②獲得免疫のしくみ ③粘膜免疫のしくみ ④感染の徴候と症状	
6	／ ()	感染源・感染経路からみた感染症 滅菌と消毒	【感染源・感染経路からみた感染症】 ①経口感染 ②経気道感染 ③接触感染④経皮感染 ⑤母児感染 【滅菌と消毒】 ①バイオハザードとバイオセーフティー②滅菌・消毒の意義と定義 ③滅菌法 ④濾過除菌 ⑤消毒と消毒薬	
7	／ ()	感染症の検査と診断	①病原体を検出する方法 ②生体の反応から診断する方法	
8	／ ()	感染症の治療	①化学療法の基礎 ②各種の化学療法薬 ③その他の治療法	
9	／ ()	感染症の現状と対策	①感染症の変遷 ②感染症の現状と問題点 ③感染症の対策	
10	／ ()	病原細菌と細菌感染症	①グラム陽性球菌 ②グラム陰性球菌 ③グラム陰性好気性桿菌 ④グラム陰性通性桿菌	
11	／ ()	病原細菌と細菌感染症	⑤カンピロバクター属、ヘリコバクター属 ⑥グラム陽性桿菌 ⑦抗酸菌と放線菌 ⑧嫌気性菌	
12	／ ()	病原細菌と細菌感染症 病原真菌と真菌感染症	⑨スピロヘータ ⑩マイコプラズマ ⑪リケッチア目 ⑫クラミジア科 ①深在性真菌症をおこす真菌	
13	／ ()	病原真菌と真菌感染症 病原原虫と原虫感染症	②深部皮膚真菌症をおこす真菌 ③表在性真菌症をおこす真菌 ①根足虫類 ②鞭毛虫類 ③孢子虫類 ④繊毛虫類	
14	／ ()	おもなウイルスとウイルス感染症	①DNAウイルス②RNAウイルス③ウイルスの臨床的分類	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進4 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
総合医療論	講義	1年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:医療や看護の原点から学び、現代医療の実際と今後の課題について理解を深める 目標:①急激な高齢化、医療技術の高度化・複雑化、医療安全への関心の高まりなど保健・医療・福祉の課題について理解を深める ②新しい展開を見せる医療・保健・福祉・看護の関わりと役割を理解する				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	医療コミュニケーションの 原点にさかのぼる 医療と看護の原点	【序章】 ①看護の「心」②専門職としての医師と看護師 ③援助される者と援助する者 ④病める者の自立への援助 【医療と看護の原点】 ①命について考える ②健康とは ③病の体験 ④癒しの行為と癒しの知 ⑤チーム医療とマネジメント	
2	/ ()	医療の歩みと医療観の変遷	①現代医学の起源 ②わが国の医療がたどってきた道 ③20世紀の医療 ④医療観のうつりかわり	
3	/ ()	私たちの生活と健康	①もしも私たちが病気やけがをしたら ②私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 ③疾病の一次予防と健康増進 ④少子高齢化社会と世代間のきずな ⑤障害者のノーマライゼーションと社会的包摂(インクルージョン) ⑥心の健康と精神医療	
4	/ ()	科学技術の進歩と現代医療の最前線	①科学技術の進歩と社会・生活の変化 ②現代医学と先端医療技術の最前線	
5	/ ()	現代医療の新たな課題	①薬の副作用と手術偶発症 ②医原病という考え方とケアの実践 ③先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ ④生命倫理学と臨床倫理学の展開 ⑤産業社会の発展と地球環境問題 ⑥医療不信から「賢い患者」へ ⑦インフォームドコンセント医療情報の開示 ⑧医療情報の開示と診療録	
6	/ ()	医療を見つめ直す新しい視点 保健・医療・福祉の潮流	①臨床疫学 ②患者の安全 ③医療の管理と評価 ④これからの先端医療開発 ⑤情報化社会と医療 ①医療変革の波とともに始まった21世紀 ②新時代の保健・医療の担い手	
7	/ ()	保健・医療・福祉の潮流	③プライマリケアの新たな展開 ④医療におけるケアの視点 ⑤保健・医療の国際化 ⑥地域包括医療システムの新しい展開 ⑦保健・医療・福祉システムと地域住民の役割 ⑧地球時代におけるケア	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 医療概論 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅰ		講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:「食べる」という生活行動と関連させ、消化・吸収の役割をもつ消化器系の構造と機能について学ぶ 目標:①人体の「構造」と「機能」の中で特に消化器系について理解を深める ②体を構成する臓器や器官レベルでのほたらき、調節するシステムなど生命を維持する活動について理解できる					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	人体の構造と機能を学ぶために	①人体の構造と機能についてなにを学ぶか ②人体の構造と機能をどのように学ぶか ③解剖学と生理学の歴史と現在		
2	／ ()	人体とはどのようなものか	①人体の階層性 ②自然界のける人類の位置 ③社会の中の人体		
3	／ ()	人体の素材としての細胞・組織	①細胞の構造 ②細胞を構成物質とエネルギーの生成		
4	／ ()	人体の素材としての細胞・組織	③細胞膜の構造と機能 ④細胞の増殖と染色体 ⑤分化した細胞がつくる組織		
5	／ ()	構造と機能からみた人体	①構造からみた人体 ②機能からみた人体		
6	／ ()	構造と機能からみた人体	③体液とホメオスタシス		
7	／ ()	口・咽頭・食道の構造と機能	①口の構造と機能		
8	／ ()	口・咽頭・食道の構造と機能	②咽頭と食道の構造と機能		
9	／ ()	腹部消化管の構造と機能	①胃の構造 ②胃の機能 ③小腸の構造		
10	／ ()	腹部消化管の構造と機能	④小腸の機能 ⑤栄養素の消化と吸収 ⑥大腸の構造 ⑦大腸の機能		
11	／ ()	便の生成と排泄	①便の生成 ②便の排泄		
12	／ ()	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	①膵臓 ②肝臓と胆嚢の構造		
13	／ ()	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	③肝臓の機能		
14	／ ()	腹膜	①腹膜と腸間膜 ②腹膜と内臓の位置関係 ③胃の周辺の間膜		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)					
備考:					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅱ	講義	1年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:①呼吸するという生活行動と関連させ、換気の役割をもつ呼吸器系の構造と機能について学ぶ ②体内の物質の輸送を行う循環器系の構造と機能について学ぶ 目標:①呼吸器系・循環器系の臓器の生理・役割について理解する ②体を構成する臓器や器官レベルではたらき、調節するシステムなど生命を維持する活動について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	呼吸器の構造	①呼吸器の構成 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔	
2	／ ()	呼吸	①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸器量 ④ガス交換とガスの運搬	
3	／ ()	呼吸	⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節 ⑦呼吸器系の病態生理	
4	／ ()	血液	①血液の組成と機能 ②赤血球 ③白血球 ④血小板	
5	／ ()	血液	⑤血漿タンパク質と赤血球沈降速度 ⑥血液の凝固と繊維素溶解 ⑦血液型	
6	／ ()	循環器系の構成 心臓の構造	【循環器系の構成】 【心臓の構造】 ①心臓の位置と外形	
7	／ ()	心臓の構造	②心臓の4つの部屋と4つの弁 ③心臓壁 ④心臓の血管と神経	
8	／ ()	心臓の拍出機能	①心臓の興奮とその伝播 ②心電図	
9	／ ()	心臓の拍出機能	③心臓の収縮	
10	／ ()	末梢循環系の構造	①血管の構造 ②肺循環の血管	
11	／ ()	末梢循環系の構造	③体循環の動脈 ④体循環の静脈	
12	／ ()	血液の循環の調節	①血圧(動脈圧)②血液の循環 ③血圧・血流量の調節	
13	／ ()	血液の循環の調節	④微小循環 ⑤循環器系の病態生理	
14	／ ()	リンパとリンパ管	①リンパ管の構造 ②リンパの循環	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅲ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的:①排泄をするという生活行動と関連させ、尿の生成と体液の調節にちて腎・泌尿器系の構造と機能を学ぶ ②動くための機関である骨格系と運動系の構造と機能について学ぶ 目標:①体液の調節、内臓機能の調整、身体の支持と運動について理解する ②体を構成する臓器や器官レベルではたらき、調節するシステムなど生命を維持する活動について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	腎臓	①腎臓の構造と機能 ②糸球体の構造と機能 ③尿細管の構造と機能 ④傍糸球体装置 ⑤クリアランスと糸球体濾過量 ⑥腎臓から分泌される生理活性物質	
2	／ ()	排尿路 体液の調節	【排尿路】 ①排尿路の構造 ②尿の貯蔵と排尿 【体液の調節】 ①水の出納 ②脱水 ③電解質の異常 ④酸塩基平衡	
3	／ ()	自律神経による調節	①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神経伝達物質と受容体	
4	／ ()	内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞	【内分泌】 ①内分泌とホルモン ②ホルモンの化学構造と作用機序 【全身】 ①視床下部-下垂体系	
5	／ ()	全身の内分泌腺と内分泌細胞	②甲状腺と副甲状腺 ③脾臓 ④副腎 ⑤性腺	
6	／ ()	ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	【ホルモン分泌の調節】 ①神経性調節 ②物質の血中濃度による自己調節 ③促進・抑制ホルモンによる調節 ④負のフィードバック ⑤正のフィードバック 【ホルモンによる調節の実際】 ①ホルモンによる糖代謝の調節 ②ホルモンによるカルシウム代謝の調節 ③ストレスとホルモン ④乳房の発達と乳汁分泌 ⑤高血圧をきたすホルモン	
7	／ ()	骨格とはどのようなものか	①人体の骨格 ②骨の形態と構造 ③骨の組織と組成 ④骨の発生と成長 ⑤骨の生理的な機能	

8	／ ()	骨の連結	①関節 ②不動性の連結	
9	／ ()	骨格筋	①骨格筋の構造 ②骨格筋の作用 ③骨格筋の神経支配	
10	／ ()	体幹の骨格と筋	①脊柱 ②胸部 ③背部の筋 ④胸部の筋 ⑤腹部の筋	
11	／ ()	上肢の骨格と筋	①上肢帯の骨格 ②自由上肢の骨格 ③上肢帯の筋群 ④上腕の筋群 ⑤前腕の筋群 ⑥手の筋群 ⑦上肢の運動	
12	／ ()	下肢の骨格と筋	①下肢帯と骨盤 ②自由下肢の骨格 ③下肢帯の筋群 ④大腿の筋群 ⑤下腿の筋 ⑥足の筋 ⑦下肢の運動	
13	／ ()	頭頸部の骨格と筋	①神経頭蓋(脳頭蓋) ②内臓頭蓋(顔面頭蓋) ③頭部の筋 ④頸部の筋	
14	／ ()	筋の収縮	①骨格筋の収縮機構 ②骨格筋収縮の種類と特性 ③不随意筋の収縮の特徴	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅳ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的:①生活行動と関連させ、脳神経・皮膚・生殖器の構造と機能について学ぶ ②外部環境と内部環境の構造と機能について学ぶ ③生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ 目標:①外部環境等からの情報を受け取る脳・神経、眼、耳等について理解する ②生体防御のための器官・しくみについて理解する ③性差を理解して、発生・成長について理解する ④体を構成する臓器や器官レベルではたらき、調節するシステムなど生命を維持する活動について理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	神経系の構造と機能	①神経細胞と支持細胞 ②ニューロンでの興奮の伝導 ③シナプスでの興奮の伝達 ④神経系の構造	
2	／ ()	脊椎と脳	①脊髄の構造と機能 ②脳の構造と機能	
3	／ ()	脊髄神経と脳神経	①脊髄神経の構造と機能 ②脳神経の構造と機能	
4	／ ()	脳の高次機能	①脳波と睡眠 ②記憶 ③本能行動と情動行動 ④内臓調節機能 ⑤中枢神経系の障害	
5	／ ()	運動機能と下行伝導路	①運動ニューロン ②下行(遠心)伝導路	
6	／ ()	感覚機能と上行伝導路	①感覚の種類 ②感覚の性質 ③体性感覚の受容器の種類 ④皮膚の感覚受容器の分布 ⑤上行(求心)伝導路	
7	／ ()	眼の構造と視覚	①眼球の構造 ②眼球付属器 ③視覚	
8	／ ()	耳の構造と聴覚・平衡覚	①耳の構造 ②聴覚 ③平衡覚	
9	／ ()	味覚と嗅覚 疼痛	【味覚と嗅覚】 ①味覚器と味覚 ②嗅覚器と嗅覚 【疼痛】 ①痛みの分類 ②疼痛の発生機序	
10	／ ()	皮膚の構造と機能 生体防御機構	【皮膚の構造と機能】 ①皮膚の組織構造 ②皮膚の付属器 ③皮膚の血管と神経 【生体防御】 ①非特異的防御機構 ②特異的防御機構－免疫 ③生体防御の関連臓器	
11	／ ()	体温とその調節	①熱の出納 ②体温の分布と測定 ③体温調節 ④発熱 ⑤高温と低体温	
12	／ ()	生殖・発生と老化のしくみ	①男性生殖器 ②女性生殖器	
13	／ ()	生殖・発生と老化のしくみ	③受精と胎児の発生 ④成長と老化	
14	／ ()	体表からみた人体の構造	①体表から触知できる胸腹部内臓 ②体表から触知できる骨格部分 ③体表から触知できる大きな筋 ④体表から触知できる動脈 ⑤体表から到達できる静脈	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
病理学総論	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師
目的:①病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響を学ぶ ②基礎医学の知識を土台にしつつ臨床医学を学ぶ ③臨床医学に科学的根拠を与えるのはどのようになされているかを学ぶ 目標:疾病に罹患するとはどのようなことか、正常な細胞・組織の違い、発生原因、進行過程で生じる様々な現象、身体への影響を理解し、診断方法・治療に関する基本的な考え方を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	病理学で学ぶこと 細胞・組織の障害と修復	【病理学で学ぶこと】 ①看護と病理学 ②病気の原因 ③病気の分類と病理学の学び方 【細胞・組織の障害と修復】 ①細胞の損傷と適応 ②組織の修復と創傷治癒	
2	/ ()	循環障害	①循環系の概要 ②浮腫(水腫) ③充血とうっ血 ④出血 ⑤血栓症 ⑥塞栓症 ⑦虚血と梗塞 ⑧側副循環による障害 ⑨ショック ⑩高血圧症 ⑪播種性血管内凝固症候群(DIC)	
3	/ ()	炎症と免疫移植と再生医療 成人看護学⑪ 感染症	【炎症と免疫移植と再生医療】 ①炎症とその分類 ②免疫と免疫不全 ③アレルギーと自己免疫疾患 ④膠原病 ⑤移植と再生医療 【感染症】 ①感染と宿主の防御機構 ②おもな病原体と感染症 ③感染症の治療と予防	
4	/ ()	代謝障害	①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖尿病 ④その他の代謝障害	
5	/ ()	老化と死	①個体の老化と老年症候群 ②加齢に伴う諸臓器の変化 ③個体の死と終末期医療	
6	/ ()	先天異常と遺伝子異常	①遺伝の生物学 ②先天異常 ③遺伝子の異常と疾患 ④先天異常・遺伝子異常の診断と治療	
7	/ ()	腫瘍	①腫瘍の定義と分類 ②悪性腫瘍の広がりと影響 ③腫瘍の発生病理 ④腫瘍の診断と治療 ⑤腫瘍の統計	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 病理学-疾病のなりたちと回復の促進① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
病態生理学	講義	1年次後期	1単位/30時間	外部講師
目的: 正常な状態から異常な状態へ陥った時に人間の身体で起こっている出来事(病態生理)を、正しく理論的にわかりやすく説明する能力を養う。				
目標: 病態について「それはなぜ? どうして?」から学習することにより、病態や疾患が説明できるようになる。				
評価方法: 1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	病態生理学の基礎知識	呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝・リウマチ性疾患について	
2	／ ()	呼吸器疾患について	1.呼吸不全を説明しよう	
3	／ ()	〃	課題学習	
4	／ ()	循環器疾患について	2.心不全を説明しよう	
5	／ ()	〃	課題学習	
6	／ ()	消化器疾患について	3.肝不全を説明しよう	
7	／ ()	〃	課題学習	
8	／ ()	代謝・リウマチ性疾患について	4.糖尿病を説明しよう	
9	／ ()	〃	課題学習	
10	／ ()	代謝・リウマチ性疾患について	5.関節リウマチを説明しよう	
11	／ ()	〃	課題学習	
12	／ ()	1～5についてまとめ	各自まとめる	
13	／ ()	プレゼンテーション	1～3について	
14	／ ()	プレゼンテーション	4～5について	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: (医学書院) 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② (学研)説明できる病態生理				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病治療 I	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的: 全身の生理機能のしくみとはたらき、各臓器の病態の理解と疾病治療論の概要を学ぶ 目標: ①全身の生理機能のしくみとはたらきが理解する。 ②各臓器の病態生理が理解する。				
評価方法: 1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	病態生理学を学ぶための基礎知識	①正常と病気の状態 ②循環障害 ③細胞・組織の障害 ④感染症 ⑤腫瘍 ⑥先天異常と遺伝子異常 ⑦老化と死	
2	／ ()	皮膚・体温調節のしくみと病態生理	①皮膚の生体防御のしくみとその障害 ②体温調節のしくみとその障害	
		免疫のしくみと病態生理	①免疫のしくみ ②免疫反応の低下 ③免疫反応の過剰	
3	／ ()	体液調節のしくみと病態生理	①体液・電解質の調節とその異常 ②酸・塩基平衡のしくみとその異常	
4	／ ()	血液のはたらきと病態生理	①骨髄の機能と障害 ②赤血球の機能とその障害 ③白血球の機能とその障害 ④血小板と出血傾向	
5	／ ()	循環のしくみとその病態生理①	①心臓のポンプ機能と病態生理 ②血圧調節と末梢循環のしくみと病態生理	
6	／ ()	循環のしくみとその病態生理②		
7	／ ()	呼吸のしくみと病態生理①	①呼吸器の構造と機能 ②呼吸困難と呼吸不全 ③呼吸器系の防御機構の障害 ④換気の障害 ⑤ガスの拡散障害 ⑥肺循環の障害 ⑦呼吸調節の障害	
8	／ ()	呼吸のしくみと病態生理②		
9	／ ()	消化・吸収のしくみと病態生理①	①消化管の構造と機能 ②咀嚼・嚥下の障害 ③胃・腸管の障害 ④消化・吸収の障害 ⑤肝臓・胆嚢の機能と障害 ⑥膵臓の機能とその障害 ⑦腹膜腔・腹膜・腸間膜の機能とその障害	
10	／ ()	消化・吸収のしくみと病態生理②		
11	／ ()	腎・泌尿器のしくみと病態生理	①腎臓の構造と機能 ②腎機能の障害 ③泌尿器のしくみと病態生理	
12	／ ()	内分泌・代謝のしくみと病態生理	①内分泌のしくみとその異常 ②糖代謝とその異常 ③脂質代謝とその異常 ④尿酸代謝とその異常 ⑤カルシウム・リンの代謝とその異常	
13	／ ()	脳・神経、筋肉のはたらきと病態生理	①脳・神経・筋肉の機能 ②脳循環のしくみとその障害 ③髄膜・髄液のはたらきとその障害 ④脳腫瘍 ⑤頭痛 ⑥睡眠障害 ⑦意識と認知の障害 ⑧運動制御のしくみとその障害 ⑨筋収縮のしくみとその障害	
14	／ ()	生殖のしくみと病態生理	①女性生殖器の機能とその異常 ②男性生殖器の機能とその異常	
		感覚器のはたらきと病態生理	①視覚器の機能とその異常 ②聴覚器の機能とその異常 ③味覚・嗅覚とその異常 ④皮膚感覚とその異常	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病治療Ⅱ	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的:1年次に学習した、「解剖生理学」「疾病学総論」の講義内容をもとに、循環器、血液・造血器系のそれぞれの臓器に生じる疾患の種類、発生の原因や進行の過程、疾病に応じた治療について学ぶ				
目標:①循環器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。 ②血液・造血器系に疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	循環器系の疾患 (病理学より) 症状とその病態生理 (成人看護学③より)	1)循環器系の疾患 ・血管の疾患・心臓の疾患 1)胸痛 2)動悸	
2	／ ()	症状とその病態生理	3)呼吸困難4)浮腫5)チアノーゼ6)めまい・失神 7)四肢の疼痛8)ショック	
3	／ ()	検査と治療	1)診察と診断の流れ 2)検査 ・心電図・胸部X線検査 ・心エコー法・脈波検査 ・心臓カテーテル法 ・その他	
4	／ ()	検査と治療	3)治療 ・内科的治療・外科的治療・補助循環装置	
5	／ ()	循環器系の疾患の理解	1)虚血性心疾患2)心不全3)血圧異常4)不整脈	
6	／ ()	循環器系の疾患の理解	5)弁膜症6)心膜炎7)心筋疾患8)肺性心	
7	／ ()	循環器系の疾患の理解	9)先天性心疾患10)動脈系疾患11)静脈系疾患 12)リンパ系疾患	
8	／ ()	血液・造血器系の疾患 (病理学より) 血液の生理と造血のしくみ (成人看護学④より)	1)腎臓および血液の疾患2)リンパ系および脾臓の疾患 1)血液の成分と機能2)造血のしくみ	
9	／ ()	検査・診断と症状・病態生理	1)病歴聴取と身体所見 ・貧血/発熱・リンパ節腫脹・脾腫 ・出血傾向 2)検査 ・末梢血検査・骨髓穿刺・骨髓生検・出血傾向の検査 ・リンパ節生検 ・その他	
10	／ ()	検査・診断と症状・病態生理	3)症候とその病態生理 ・貧血・白血球増加症・白血球減少症 ・脾腫 ・リンパ節腫脹 ・出血性素因	
11	／ ()	疾患と治療の理解	1)赤血球系の異常2)白血球系の異常	
12	／ ()	疾患と治療の理解	3)造血器腫瘍 ・造血器腫瘍とは ・造血器腫瘍の分類 ・治療計画とインフォームドコンセント	
13	／ ()	疾患と治療の理解	・造血器腫瘍治療の基本理念 ・造血器腫瘍治療における支持療法・急性白血病 ・骨髄異形成症候群(MDS) ・慢性骨髄白血病(CML) ・骨髄増殖性腫瘍(MPN)・慢性リンパ性白血病(CLL) ・成人T細胞白血病リンパ腫(ATLL)・悪性リンパ腫 ・その他	
14	／ ()	疾患と治療の理解	4)出血性疾患 ・血管異常による出血性疾患・血小板異常による出血性疾患 ・凝固異常による出血性疾患 ・播種性血管内凝固症候群(DIC)	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病治療Ⅲ		講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:1年次に学習した、「解剖生理学」「疾病学総論」の講義内容をもとに呼吸器系、消化器系及び歯・口腔のそれぞれの臓器に生じる疾患の種類、発生の原因や進行の過程、疾病に応じた治療について学ぶ					
目標:①呼吸器系、消化器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する ②歯・口腔の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内 容		担当者
1	／ ()	呼吸器系の疾患(病理学より) 症状とその病態生理 (成人看護学②より)	1)呼吸器系の疾患 ・鼻腔・咽頭・喉頭の疾患 ・気管・気管支・肺の疾患・胸膜と縦隔の疾患 1) 自覚症状2) 他覚症状		
2	／ ()	検査と治療・処置	1) 診察と診断の流れ・問診 ・身体所見 ・その他 2) 検査・血液検査 ・喀痰検査 ・その他		
3	／ ()	検査と治療・処置	3) 治療・処置・吸入療法 ・酸素療法 ・人工呼吸療法		
4	／ ()	呼吸器系の疾患	1) 感染症・かぜと急性気管支炎 ・インフルエンザ ・肺炎 ・その他2) 間質性肺疾患 3) 気道疾患・気管支喘息 ・気管支拡張症 ・その他4) 肺血栓塞栓症		
5	／ ()	呼吸器系の疾患	5) 呼吸不全6) 呼吸調節に関する疾患 ・過換気症候群 ・睡眠時無呼吸症候群 ・その他7) 肺腫瘍 ・良性腫瘍 ・悪性腫瘍		
6	／ ()	呼吸器系の疾患	8) 肺・肺血管の形成異常 9) 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患10) 肺移植11) 胸部外傷・肋骨骨折・横隔膜破裂 ・その他		
7	／ ()	消化器系の疾患 (病理学より) 症状とその病態生理 (成人看護学⑤より)	1) 口腔・食道の疾患 2) 胃の疾患 3) 腸・腹膜の疾患 4) 肝臓・胆管・胆嚢の疾患 5) 膵臓の疾患1) 嚥下困難 2) おくび・胸やけ 3) 吐きけ・嘔吐 4) 腹痛 5) 吐血・下血 6) 下痢・便秘 7) 腹部膨満 8) 食欲不振と体重減少 9) 腹水 10) 黄疸 11) 意識障害(肝性脳症)		
8	／ ()	検査と治療	1) 診察と診断の流れ・打診 ・触診 ・直腸指診 ・その他2) 検査・糞便検査 ・肝機能検査 ・その他 3) 治療・薬物療法 ・栄養療法 ・食事療法 ・手術療法・放射線療法		
9	／ ()	疾患の理解	1) 食道の疾患・食道がん ・食道アカラシア ・その他2) 胃・十二指腸疾患・胃炎 ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃がん ・その他		
10	／ ()	疾患の理解	3) 腸および腹膜疾患 ・腸炎 ・腹膜炎 ・ヘルニア ・イレウス(腸閉塞症) ・結腸がん、直腸がん ・肛門疾患 ・その他		
11	／ ()	疾患の理解	4) 肝臓・胆嚢の疾患・肝炎 ・肝硬変症 ・肝(臓)がん・胆石症 ・胆管がん・胆嚢がん ・その他 5) 膵臓の疾患 ・膵(臓)炎 ・膵(臓)がん6) 急性腹症7) 腹部外傷		
12	／ ()	歯・口腔の構造と機能 (成人看護学⑬より) 症状とその病態生理	1) 歯および歯周組織2) 口唇および頬部3) 口蓋4) 舌5) 口底・顎下部6) 顎および顎関節7) 口腔顎顔面の筋8) 唾液腺 1) 口腔症状 ・疼痛 ・腫脹 ・口腔出血 ・その他 2) 顎口腔機能障害 ・呼吸障害 ・開口障害 ・咀嚼障害・嚥下障害 ・その他		
13	／ ()	検査と治療・処置	1) 検査・口腔内検査・口腔外検査・画像検査・その他2) 治療・処置・齲蝕の治療・歯周疾患の治療 ・口腔外科外来治療・口腔外科入院治療 ・補綴治療・歯科矯正治療 ・その他		
14	／ ()	疾患の理解	1) 歯の異常と疾患2) 歯周組織の疾患 3) 齲蝕に続発する疾患(顎骨の炎症) 4) 口腔粘膜の疾患5) 口腔領域の嚢胞 6) 口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 7) 口腔領域の悪性腫瘍8) 歯と顎骨の外傷 9) 口腔領域の先天異常および発育異常 10) 顎関節の疾患11) 唾液腺の疾患12) 神経の疾患		
15	／ ()	テスト			
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔 成人看護学⑬ (医学書院)					
備考:					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病治療Ⅳ	講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:1年次に学習した、「解剖生理学」「疾病学総論」の講義内容をもとに腎・泌尿器、生殖器系および乳腺、内分泌・代謝系のそれぞれの臓器に生じる疾患の種類、発生の原因や進行の過程、疾病に応じた治療について学ぶ 目標:①腎・泌尿器、生殖器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する ②乳腺、内分泌・代謝系の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	腎・泌尿器系の疾患 症状とその病態生理	腎・泌尿器の疾患 1)尿の異常 2)排尿に関連した症状 3)浮腫	
2	／ ()	症状とその病態生理	4)脱水 5)循環器系の異常 6)血液の異常 7)尿毒症 8)その他の症状	
3	／ ()	検査と治療・処置	1)診察 2)検査 3)治療と処置 4)排尿管理 5)透析療法 6)腎移植	
4	／ ()	疾患の理解	1)腎不全と慢性腎臓病 2)ネフローゼ症候群 3)糸球体腎炎 4)全身性疾患による腎障害 5)妊娠高血圧症候群 6)尿路・性器の感染症	
5	／ ()	疾患の理解	7)尿路の通過障害と機能障害 8)尿路損傷および異物 9)尿路結石症 10)尿路・性器の腫瘍 11)発生・発育の異常 12)男性不妊症、男性性機能障害、男性生殖器疾患 13)その他	
6	／ ()	女性生殖器および乳腺の疾患 症状とその病態生理 (成人看護学⑨より)	1)生殖器系の疾患 1)ショック 2)出血 3)帯下 4)発熱 6)下腹部膨満・腫瘍感 7)外陰部掻痒感 8)排尿障害 9)自律神経症状、不定愁訴 10)リンパ浮腫	
7	／ ()	症状とその病態生理	2)乳腺の疾患	
8	／ ()	診察・検査と治療・処置	1)診察・検査 ・理学検査 ・病理検査 ・その他 2)治療・処置 ・膣洗浄 ・穿刺 ・その他	
9	／ ()	疾患の理解	1)性分化疾患 2)臓器別疾患 ・外陰、膣、子宮の疾患 ・卵管、卵巣の疾患	
10	／ ()	疾患の理解	3)機能的疾患 ・月経異常 ・月経随伴症状 ・更年期障害 ・その他 4)感染症	
11	／ ()	内分泌・代謝 症状とその病態生理 (成人看護学⑧より)	内分泌系の疾患 ・ホルモンとホメオスタシス ・内分泌器官の疾患 1)体重変化・身長の変化 2)容貌の変化	
12	／ ()	症状とその病態生理	3)神経・筋症状 4)循環器症状 5)その他	
13	／ ()	検査 疾患の理解	1)内分泌疾患の検査 2)代謝疾患の検査 1)内分泌疾患 ・視床下部-下垂体前葉系疾患 ・視床下部-下垂体後葉系疾患 ・甲状腺疾患 ・その他	
14	／ ()	疾患の理解	2)代謝疾患 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・肥満症とメタボリックシンドローム ・その他	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病治療Ⅴ	講義	2年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的:1年次に学習した、「解剖生理学」「疾病学総論」の講義内容をもとに脳・神経・筋系、骨・関節系、眼・耳・鼻・皮膚系のそれぞれの臓器に生じる疾患の種類、発生の原因や進行の過程、疾病に応じた治療について学ぶ 目標:①脳・神経系に疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する ②骨・関節系の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する ③眼・耳・鼻・皮膚系の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	脳・神経の疾患 症状とその病態生理 (成人看護学⑦)	1)脳・神経の疾患 ・脳・神経系の循環障害と外傷・脳・神経系の感染症 2)筋肉系の疾患・進行性筋ジストロフィー ・その他 1)脳・神経障害とは	
2	／ ()	症状とその病態生理 検査・診断と治療・処置	2)おもな症状とその病態生理 ・意識障害 ・高次機能障害 ・運動機能障害・その他 1)診断と診療の流れ 2)検査・神経学的検査 ・補助的検査法 ・その他 3)治療・処置・外科的治療法 ・内科的治療法	
3	／ ()	疾患の理解	1)脳疾患 2)脊髄疾患 3)末梢神経障害 4)筋疾患・神経筋接合部疾患	
4	／ ()	疾患の理解	5)脱髄・変性疾患 6)脳・神経系の感染症 7)その他	
5	／ ()	骨・関節系の疾患 (病理学より) 症状とその病態生理 (成人看護学⑩)	1)骨折 2)骨髄炎 3)骨粗鬆症 4)関節炎 5)椎間板ヘルニア 6)骨肉腫 7)転移性骨腫瘍 1)疼痛 2)形態の異常 3)関節運動の異常 4)神経の障害 5)その他	
6	／ ()	診断・検査と治療・処置	1)診察・診断の流れ 2)検査 3)治療・処置・保存療法 ・理学療法と作業療法 ・手術療法 ・義肢と装具	
7	／ ()	疾患の理解	1)骨折 2)脱臼 3)その他	
8	／ ()	疾患の理解	内因性(非外傷性)の運動器疾患 1)先天性疾患 2)骨・関節の炎症性疾患 3)骨腫瘍および軟部腫瘍 4)代謝性骨疾患 5)その他	
9	／ ()	眼科の疾患 眼・症状とその病態生理	1)視機能に関連した症状 2)視機能に関連しない症状	
10	／ ()	検査と治療 疾患の理解	【検査と治療】 1)診察と診断の流れ 2)検査 3)治療1)機能の障害 2)部位別の疾患 3)外傷 4)全身疾患との関連	
11	／ ()	耳鼻咽喉の疾患 症状とその病態生理 (成人看護学⑭より) 検査と治療	1)耳の疾患2)鼻の疾患3)咽喉の疾患 1)耳に現れる症状と病態生理 2)鼻にあらわれる症状と病態生理 3)口腔、唾液腺、咽頭に現れる症状と病態 4)喉頭に現れる症状と病態整理 1)診察と診断のながれ 2)おもな検査 3)おもな治療	
12	／ ()	疾患の理解	1)耳疾患・外耳疾患 ・内耳疾患 ・内耳・後迷路性疾患 2)鼻の疾患3)口腔・咽頭の疾患 4)気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害	
13	／ ()	皮膚の疾患 症状とその病態生理 (成人看護学⑫) 検査と治療 疾患の理解	皮膚の疾患1)発疹 2)掻痒(かゆみ) 3)皮膚の老化 1)診察と診断の流れ 2)検査 ・皮膚的検査法 ・その他 3)治療・処置・全身療法 ・外用療法 ・手術療法 ・その他 1)表在性皮膚疾患 2)真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器の疾患	
14	／ ()	疾患の理解	3)脈管系の異常による皮膚疾患4)物理・化学的皮膚傷害 5)腫瘍および色素異常症 6)感染症 7)全身性疾患に伴う皮膚病変	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト::系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ (医学書院)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ (医学書院)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ (医学書院)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 成人看護学⑬ (医学書院)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ (医学書院)				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床薬理Ⅰ	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師
目的:薬剤が生体に対してどのように作用し、生体は薬剤を体内でどのように処理しているかを学ぶ 目標:①薬理学とはどのような学問かを理解する ②薬理学の基本的知識を理解し、発達段階・性差による人体への影響を理解する ③薬と法律の関係について理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	薬理学を学ぶにあたって	【薬理学とはなにか】 【薬のよる病気の治療】	
2	/ ()	薬理学の基礎知識	【薬が作用するしくみ】 ①薬物受容体 ②イオンチャンネル ③酵素 ④トランスポーター	
3	/ ()	薬理学の基礎知識	【薬の体内の挙動(薬物動態学)】 ①薬物の投与経路 ②薬物の吸収 ③薬物の分布 ④薬物の代謝と排泄 ⑤治療において重要となる薬物動態の指標	
4	/ ()	薬理学の基礎知識	【薬剤相互作用】 ①薬物動態的相互作用 ②薬力学的相互作用 【薬効の個人差に影響する因子】 ①年齢 ②性 ③妊娠 ④遺伝子	
5	/ ()	薬理学の基礎知識	【薬物使用の有益性と危険性】 ①薬物の用量による影響 ②薬物の副作用 ③薬物の反復投与による影響 【薬と法】 ①医薬品に関する法律 ②新薬の開発	
6	/ ()	漢方薬	①漢方薬の基礎知識 ②漢方薬各論	
7	/ ()	消毒薬	①消毒薬とは ②消毒薬の種類と応用 ③消毒薬の適用	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床薬理Ⅱ	講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:薬物療法を受けている患者に対して適切な看護を行うために薬剤の作用機序を理解し、さらに各臓器に作用する薬物の作用・副作用について学ぶ 目標:①疾患ごとの治療薬の種類・作用・副作用を理解する ②治療薬による生体反応を理解する ③理解された薬理学をどのように看護に活かす方法を考える				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	抗感染症薬	①感染症薬に関する基礎事項 ②抗感染症薬各論 ③特殊な感染症の治療薬 ④感染症の治療における問題点	
2	／ ()	抗がん薬 免疫治療薬	【抗がん薬】 ①がん治療に関する基礎事項 ②抗がん薬各論 【免疫治療薬】 ①免疫系の基礎知識 ②免疫抑制薬 ③免疫増強薬・予防接種薬	
3	／ ()	抗アレルギー薬・抗炎症薬 末梢での神経活動に作用する薬物	【抗アレルギー薬・抗炎症薬】 ①抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ②炎症と抗炎症薬③関節リウマチ治療薬 ④痛風・高尿酸血症治療薬⑤片頭痛治療薬 【末梢での神経活動に作用する薬物】 ①神経系による情報伝達 ②自律神経系作用薬 ③交感神経作用薬 ④副交感神経作用薬 ⑤筋弛緩薬・局所麻酔薬	
4	／ ()	中枢神経系に作用する薬物	①中枢神経系のはたらきと薬物 ②全身麻酔薬③催眠薬・抗不安薬 ④抗精神病薬 ⑤気分障害治療薬 ⑥パーキンソン症候群治療薬 ⑦抗てんかん薬⑧麻薬性鎮痛薬	
5	／ ()	心臓・血管系に作用する薬物	①抗高血圧薬 ②狭心症治療薬 ③心不全治療薬④抗不整脈薬 ⑤利尿薬 ⑥脂質異常症治療薬 ⑦血液に作用する薬剤	
6	／ ()	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 物質代謝に作用する薬物	【呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物】 ①呼吸器系に作用する薬物 ②消化器系に作用する薬物 ③生殖器・泌尿器系に作用する薬物 【物質代謝に作用する薬物】 ①ホルモンとホルモン拮抗薬②治療薬としてのビタミン	
7	／ ()	皮膚科用薬・眼科用薬 救急の際に使用される薬物	【皮膚科用薬・眼科用薬】 ①皮膚に使用する薬物 ②眼科用薬 【救急の際に使用される薬物】 ①救急に用いられる薬物 ②急性中毒に対する薬物	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト::系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
リハビリテーション		講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:リハビリテーションの概念と実際について学ぶ					
目標:①リハビリテーションの概念と実際について学ぶ ②リハビリテーションの実際について理解できる ③リハビリテーションを受ける対象に必要な看護が考えられる					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月/日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	/ ()	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの定義・理念、リハビリテーションの対象と制度、疾病・障害・生活の分類(ICD)(ICIDH)		
2	/ ()	リハビリテーションを受ける人の対象の理解	リハビリテーション看護の対象、リハビリテーション看護の方法		
3	/ ()	運動器系の生涯とリハビリテーション看護	生活機能障害のアセスメント		
4	/ ()	中枢神経系の生涯とリハビリテーションの看護	生涯に対するリハビリテーション		
5	/ ()	呼吸器系・循環器系の生涯とリハビリテーション看護 感覚器系のリハビリテーションの看護	社会的リハビリテーション、社会資源の活用、コミュニケーションの援助		
6	/ ()	演習	リハビリテーションを受けている人の看護		
7	/ ()	演習	リハビリテーションを受けている人の看護		
8	/ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:(医学書院) 系統別看護講座－別巻 リハビリテーション看護					
備考:					

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
公衆衛生学		講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:①健康と環境の関わりを理解し、人間の健康を保持増進する方法を学ぶ ②人間の保健・医療・福祉の増進のために医療チームの一員としての保健活動について学ぶ					
目標:①人の健康を保持・増進する方法を学び、理解し、実生活で活用できる ②医療チームの一員として働ける能力を身につける					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	序章 公衆衛生のエッセンス	【序章】 ①みんなの健康 ②「ひとり」から「みんな」の看護へ ③「みんなの健康」はみんなの力で 【公衆衛生のエッセンス】 ①公衆衛生とはなにか ②世界の公衆衛生の歴史-はじまりの物語 ③日本における公衆衛生-はじまりと発展 ④戦後の展開-新たな公衆衛生の理念 ⑤公衆衛生を看護に取り込む力-サイエンスとアートの活用		
2	／ ()	公衆衛生の活動対象	①自分の生活と健康に関する社会集団 ②看護職の公的責任と活動対象 ③社会集団をとらえる視座 ④社会集団の中にある特定集団		
3	／ ()	公衆衛生のしくみ	①政策展開 ②国と地方自治体の役割 ③専門職のはたらき ④住民との協働		
4	／ ()	環境と健康	①地球規模の環境と健康 ②身のまわりの環境と健康		
5	／ ()	国際保健	①世界との出会い ②経済格差と健康格差 ③健康格差の解消のために ④国際保健の担い手 ⑤国際保健の共通目標-ミレニアム開発目標(MDGs) ⑥国際保健と日本 ⑦正解のない課題を前にして		
6	／ ()	集団の健康をとらえるための手法-疫学	①集団としての人々の健康をまもる ②公衆衛生の場での疫学-集団をとらえる ③公衆衛生の場での疫学-原因を分析する		
7	／ ()	集団の健康をとらえるための手法-疫学	④公衆衛生の場での疫学-対策を計画・実施する ⑤エビデンスを使う、つくる		
8	／ ()	地域保健	①母子保健 ②成人保健		
9	／ ()	地域保健	③高齢者保健 ④精神保健		
10	／ ()	地域保健	⑤歯科保健 ⑥難病支援・障害支援 ⑦感染症対策		
11	／ ()	学校と健康	①学校における健康とは ②学校保健の展開 ③特別な支援を必要とする子どもたち		
12	／ ()	職場と健康	①職場における健康とは		
13	／ ()	職場と健康	②産業保健・看護活動の展開 ③産業保健における今後の課題と新たな動き		
14	／ ()	健康危機管理・災害管理	①健康危機管理 ②災害保健		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② (医学書院)					
備考:					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
社会福祉 I	講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:社会保障制度と社会保障の動向や内容を理解し、福祉・保健・医療の諸問題について学ぶ 目標:①社会保障・社会福祉制度の概要を理解する ②医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助について理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	社会保障制度と社会福祉	①社会保障制度 ②社会福祉の法制度	
2	/ ()	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	①現代社会の変化 ②社会保障・社会福祉の動向	
3	/ ()	医療保障	①医療保障制度の沿革 ②医療保障制度の構造と体系 ③健康保険と国民健康保険	
4	/ ()	医療保障	④高齢者医療制度 ⑤保険診療のしくみ ⑥公費負担医療 ⑦国民医療費	
5	/ ()	介護保障	①介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 ②介護保険制度の概要 ③介護保険制度の課題と展望	
6	/ ()	所得保障	①所得保障制度のしくみ ②年金保険制度 ③社会手当 ④労働保険制度	
7	/ ()	公的扶助	①貧困・低所得問題と公的扶助制度 ②生活保護制度のしくみ ③低所得者対策 ④近年の動向	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
社会福祉 II	講義	3年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:医療チームの一員として他職種との連携に役立てるために、社会福祉について理解する。高齢者福祉、障害者福祉、児童・家庭福祉について理解し、支援方法について学ぶ 目標:①社会福祉の歴史と制度について理解する ②社会福祉について医療・看護の視点で理解する ③社会福祉の各分野・サービスについて理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	社会福祉の分野とサービス	①高齢者福祉 ②障害者福祉	
2	/ ()	社会福祉の分野とサービス	③児童家庭福祉	
3	/ ()	社会福祉実践と医療・看護	①社会福祉援助とは ②個別援助技術(ケースワーク) ③集団援助技術(グループワーク)	
4	/ ()	社会福祉実践と医療・看護	④間接援助技術と関連援助技術 ⑤社会福祉援助の検討課題 ⑥連携の重要性	
5	/ ()	社会福祉実践と医療・看護	⑦社会福祉実践と医療・看護の連携 ⑧連携の場面とその方法	
6	/ ()	社会福祉の歴史	①福祉史の枠組み ②福祉史の3段階 ③前近代の救済の諸相	
7	/ ()	社会福祉の歴史	④近代の救済の諸相 ⑤現代社会の構造変化と生活支援 ⑥戦後の社会福祉の再生	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
関係法規Ⅰ		講義	2年次後期	1単位／15時間	外部講師
目的:医療に関わる法律を理解し、看護職に関係の深い法令について学ぶ					
目標:看護法・医事法・保健衛生法・薬務法など関連の深い法律・法令を理解する					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1とを総合的に判断する					
回	月/日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	法の概念	①法の概念 ②法の分類 ③衛生法 ④厚生行政のしくみ		
2	／ ()	看護法	①保健師助産師看護師法 ②看護師等の人材確保に関する法律		
3	／ ()	医事法	①医師法・医療法 ②医療関係資格法 ③保健医療福祉資格法		
4	／ ()	医事法	④医療を支える法 ⑤人の死に関する法 ⑥緊急時の看護・医療に関する法		
5	／ ()	保健衛生法	①共通保健法 ②分野別保健法		
6	／ ()	保健衛生法	③感染症に関する法 ④食品に関する法		
7	／ ()	薬務法	①薬事一般に関する法律 ②人等の組織を用いた医療関連法 ③薬害被害者の救済等 ④麻薬・毒物等		
8	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ (医学書院)					
備考:					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
関係法規Ⅱ	講義	3年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的: 人間が生活している環境・社会についての法律を理解する 労働法や社会保障制度など、看護師としての実務に必要な法律について学ぶ 目標: ①それぞれの制度の内容と関連について理解する ②法令の改訂にも目を向け、刻々と変化する内容等にも理解を深める				
評価方法: 1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	環境衛生法	①営業 ②環境整備	
2	/ ()	社会保険法	①費用保障 ②年金 ③手当	
3	/ ()	福祉法	①福祉の基盤 ②児童分野	
4	/ ()	福祉法	③高齢分野 ④障害分野	
5	/ ()	労働法と社会基盤整備	①労働法	
6	/ ()	労働法と社会基盤整備	②社会基盤整備等	
7	/ ()	環境法	①環境保全の基本法 ②公害の防止法 ③自然保護法	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
医療と経済	講義	3年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的 超高齢社会における疾病構造の変化、療養の場の多様化、地域包括ケアシステムの推進という背景のなか、多様化・複雑化するケアニーズに対応できる看護職者を育成することが目的とされている。医療人は人々の健康や福祉を維持・向上するという社会的役割を担っている社会保障制度としての医療の仕組み、ならびにその経済基盤について学ぶ 目標： ①健康・医療教育、健康教育、健康・医療の実態、医療制度、病院、医療施設の実態を理解する ②諸外国と日本の医療制度の違いを理解する				
評価方法：1. 筆記試験（90％） 2. 授業への参加態度・状況（10％） 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	医療と経済	医療保険の制度の概要	
2	／ ()	日本の医療費	国民医療費の規模や構成を知る。	
3	／ ()	医療保険の考え方	医療制度・介護制度について経済学について	
4	／ ()	医療保険の運営と実際	少子高齢化、人口都市集中と超高齢化、これらの医療・介護への影響	
5	／ ()	保健医療の費用	グループワーク	
6	／ ()	医療経済評価	診療報酬制度の意義について、経済学的視点だけではなく、政治的な観点からも考える。	
7	／ ()	経済発展と国民の水準	医療・介護従事者(医師・看護師など)の労働市場の現状と将来について考える。	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト： 講師資料				
備考：				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護学概論	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:1. 看護の歴史的変遷や理論を学び、看護の機能、看護の活動の場について学ぶ 2. 保健医療チームの一員として、看護の対象である人間の生活と健康、看護の役割を学ぶ 目標:①看護の概念や歴史的変遷や看護論を通して理解できる ②看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	看護とは	ナイチンゲール 序章～	
2	／ ()	看護の概念(看護)	1. 看護とは 1)看護の変遷 2)看護の主要概念 3)近代看護 4)	
3	／ ()	看護の概念(看護)	1)看護の変遷	
4	／ ()	看護の概念(看護)	2)看護の主要概念	
5	／ ()	看護の概念(看護)	3)近代看護 看護の理論家たち	
6	／ ()	看護の対象(人間)	2. 看護の対象としての人間 1)統合体としての人間 2)人間と欲求	
7	／ ()	看護の対象(人間)	1)人間と環境 2)ライフサイクル 3)患者と家族	
8	／ ()	看護の対象(人間)	4)看護職者の就業状況と継続教育 5)看護職の養成制度の課題	
9	／ ()	看護における倫理	1)現代社会と倫理 2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	
10	／ ()	看護における倫理	3)看護実践における倫理問題への取り組み	
11	／ ()	健康の概念(健康)	3. 人間の健康 1)健康の定義 2)健康の段階と連続性	
12	／ ()	健康の概念(健康)	3)健康に関する諸要因 4)生涯の理解 5)基本的権利としての健康	
13	／ ()	看護の機能と役割(環境)	4. 看護の機能と役割 5. 看護師としての責任と行動	
14	／ ()	看護の国際協力(環境)	6. 看護の国際協力 1)世界の健康問題の現状 2)国際看護の基本理念 3)国際協力 4)異文化理解	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学1 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護の概要について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床看護学総論	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的:看護の基本である多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ				
目標:基礎的知識や技術が実践でどのように統合されるのか対象のライフサイクル、生活の場、健康状態、症状、治療と関連させて理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	【ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ】 ①人のライフサイクルからとらえた看護 ②子どもの理解と看護 ③成人の理解と看護 ④高齢者の理解と看護 ⑤親になる人の理解と看護	
2	／ ()	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	【家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ】①家族の理解②家族の健康上のニーズ	
3	／ ()	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	【生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ】 ①生活と療養の場とは ②病院・施設における看護 ③在宅における看護	
4	／ ()	健康状態の経過に基づく看護	①健康状態と看護 ②健康の維持・増進を旨とする看護 ・健康の維持・増進を旨とする看護の特徴 ・健康の維持・増進を旨とする人々のニーズ ・健康の維持・増進を旨とする人々への看護援助	
5	／ ()	健康状態の経過に基づく看護	③急性期における看護 ・急性期の特徴 ・急性期の患者ニーズ ・急性期にある患者への看護援助	
6	／ ()	健康状態の経過に基づく看護	④慢性期における看護 ・慢性期の特徴 ・慢性期の患者ニーズ ・慢性期にある患者への看護援助	
7	／ ()	健康状態の経過に基づく看護	⑤リハビリテーション期における看護 ・リハビリテーション期の特徴 ・リハビリテーション期の患者のニーズ ・リハビリテーション期にある患者への看護援助	
8	／ ()	終末期における看護	⑥終末期における看護 ・終末期の特徴 ・終末期の患者のニーズ ・終末期にある患者への看護援助	
9	／ ()	主要な症状を示す対象者への看護	①呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 ②循環に関連する症状を示す対象者への看護 ③栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護	
10	／ ()	主要な症状を示す対象者への看護	④排泄に関連する症状を示す対象者への看護 ⑤活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 ⑥認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護	
11	／ ()	主要な症状を示す対象者への看護	⑦コーピングに関する連症状を示す対象者への看護 ⑧安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 ⑨安楽に関連する症状を示す対象者への看護	
12	／ ()	治療・処置を受ける対象者への看護	①輸液療法を受ける対象者への看護 ②化学療法を受ける対象者への看護	
13	／ ()	治療・処置を受ける対象者への看護	③放射線療法を受ける対象者への看護 ④手術療法を受ける対象者への看護	
14	／ ()	治療・処置を受ける対象者への看護	⑤集中治療を受ける対象者への看護 ⑥創傷処置／創傷ケアを受ける対象者への看護 ⑦身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 (医学書院)				
備考:病態生理に関する知識や看護学概論、基礎看護技術の内容を基盤に、健康障害をもつ対象者を理解し、健康状態に応じた考え方を学び、臨地実習や各領域看護学への学習に活用できることを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅰ	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的: 1. 看護技術とは何かを考え、看護技術の特徴、範囲、要素について学ぶ 2. 看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術を学ぶ ヘルスアセスメント、学習支援について科学的根拠に基づいて学ぶ				
目標: ①あらゆる場面に共通するヘルスアセスメントについて理解し活用できる ②あらゆる場面に共通する学習支援について理解し活用できる				
評価方法: 1.筆記試験(70%) 2. 看護技術試験(20%) 3.授業への参加態度・課題提出(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／()	看護技術を学ぶにあたって	①技術とはなにか ②看護技術の特徴 ③看護技術の範囲 ④看護技術を適切に実践するための要素 ⑤看護技術の発展と修得のために	
2	／()	ヘルスアセスメント	①ヘルスアセスメントとは ・意味・観察・重要な視点 ②健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・問診(面接)の技術・健康歴聴取の目的・健康歴聴取の実際 ・セルフケア能力のアセスメント・情報の整理	
3	／()	ヘルスアセスメント バイタルサイン測定の方法	③全体の概観・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・全身状態・全体印象の把握 ・バイタルサインの観察とアセスメント・計測 ④－1体温、脈拍、呼吸、	
4	／()	ヘルスアセスメント バイタルサイン測定の方法	⑤全体の概観・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・全身状態・全体印象の把握 ・バイタルサインの観察とアセスメント・計測 ⑥－1血圧測定	
5	／()	ヘルスアセスメント(演習)	③全体の概観 ・問診 ・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・全身状態・全体印象の把握	
6	／()	タスクレーニング(実習室)	④－2体温、脈拍、呼吸	
7	／()	タスクレーニング(実習室)	④－3血圧測定の実際	
8	／()	タスクレーニング(実習室)	④－4体温、脈拍、呼吸、血圧測定一連の測定	
9	／()	タスクレーニング(実習室)	看護技術試験(バイタルサイン測定)	
10	／()	ヘルスアセスメント ・領域別につながる系統的フィジカルアセスメント概要	系統的フィジカルアセスメント ・ケアにつながるフィジカルアセスメント・呼吸器系・循環器系	
11	／()	ヘルスアセスメント ・領域別につながる系統的フィジカルアセスメント概要	系統的フィジカルアセスメント ”④－2系統的フィジカルアセスメント・乳房・腋窩・腹部 ・筋・骨格系・神経系・頭頸部と感覚器(眼・耳・鼻・口) 心理・社会状態のアセスメント	
12	／()	演習	系統的フィジカルアセスメント	
13	／()	演習	系統的フィジカルアセスメント	
14	／()	演習	系統的フィジカルアセスメント	
15	／()	テスト		
履修者へのコメント: 自己学習の時間を有効に活用してください。 看護技術の試験および臨地実習に向けて、技術練習をしてください。				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅱ		講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的:看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術の感染防止の技術、安全確保の技術について科学的根拠に基づいて学ぶ 目標: ①あらゆる場面に共通するコミュニケーションについて理解し活用できる ②あらゆる場面に共通する感染防止の技術について理解し活用できる. ③あらゆる場面に共通する安全確保の技術について理解し活用できる					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者	
1	／ ()	コミュニケーション	①意義と目的 ・コミュニケーションとは・医療におけるコミュニケーション ②構成要素と成立過程・手段・構成要素と成立 ③関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動と非接近的行動 ④コミュニケーション演習		
2	／ ()	コミュニケーション	⑤効果的なコミュニケーションの実際 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術・説明の技術 ・アサーティブネス ⑥コミュニケーション障害への対応 ・コミュニケーションに障害のある人の特徴 ・言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ・コミュニケーション障害がある人への対応 ⑦パーソナルスペースについて		
3	／ ()	コミュニケーション(演習)			
4	／ ()	感染防止の技術① 感染の基礎知識	①感染防止の基礎知識 ・感染成立の条件 ・院内感染の防止 ②標準予防策(スタンダードプリコーション) ・標準予防策の基礎知識－(1) (衛生学的手洗い)		
5	／ ()	感染防止の技術① 感染の基礎知識②	①標準予防策(スタンダードプリコーション) ・標準予防策の基礎知識－(2) 標準予防策:個人防護用具(PPE) ②感染経路別予防策 ・感染経路別予防策の基礎知識・実際		
6	／ ()	タスクトレーニング(実習室)	標準予防策:衛生学的手洗い 標準予防策:個人防護用具(PPE)		
7	／ ()	感染防止の技術②	①洗浄・消毒・滅菌 ②無菌操作①感染性廃棄物の取り扱い ・感染性廃棄物の基礎知識 ・対策の実際 ②針刺し防止策 ③医療施設における感染管理		
8	／ ()	感染防止の技術③ タスクトレーニング(実習室)	無菌操作の実際 ・滅菌手袋の装着 ・ガウンテクニック(滅菌ガウン) ・滅菌物の取扱い ・鉗子、鑷子の取扱い		
9	／ ()	医療安全	安全対策①		
10	／ ()	安全対策	安全対策②		
11	／ ()	安全確保の技術 ・誤薬防止 ・チューブ類抜去防止 ・誤認防止	①安全確保の基礎知識 ②誤薬防止の基礎知識、DVD・誤薬防止の実際 ③チューブ類の予定外抜去防止の基礎知識 ・チューブ類の予定外抜去防止の実際 ④患者誤認防止・患者誤認防止の方法、DVD		
12	／ ()	安全確保の技術 ・転倒、転落防止 ・薬剤、放射線曝露の防止	①転倒、転落防止 ・転倒、転落防止の基礎知識、DVD ・転倒、転落防止の実際 ②薬剤、放射線曝露の防止、DVD ・抗がん剤曝露の防止 ・放射線曝露の防止		
13	／ ()	KYTトレーニング	グループワーク		
14	／ ()	KYTトレーニング	グループワーク		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:実習に向けて看護技術の自己学習をしてください。					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)					
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ感染防止の技術・安全確保の技術について科学的根拠に基づいて教授する。					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅲ	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的: 基本的な日常生活行動への援助技術である環境調整技術、活動休息技術、苦痛の緩和について対象の生活行動に配慮した援助技術を学ぶ				
目標: ①環境調整技術について理解し活用できる ②活動・休息援助技術について理解し活用できる ③苦痛の緩和・安楽の確保の援助技術について理解し活用できる				
評価方法: 1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	環境調整技術	①援助の基礎知識 ・療養生活の環境	
2	／ ()	環境調整技術	②援助の基礎知識 ・病室の環境のアセスメントと調整	
3	／ ()	タスクレーニング(実習室)	③援助の実際 ・リネンのたたみ方、広げ方 ・環境整備 ・包布、枕カバーの準備	
4	／ ()	タスクレーニング(実習室)	④援助の実際 ・病床を整える ベッドメイキングの基本 オープンベッド、クローズドベッドの作成 (2人で)	
5	／ ()	タスクレーニング(実習室)	⑤援助の実際 ・病床を整える シーツ交換 (1人で作成)	
6	／ ()	タスクレーニング(実習室)	・ベッドメイキングの基本 臥床患者のシーツ交換 (2人で作成)	
7	／ ()	タスクレーニング(実習室)	・シーツ交換・環境整備 (1人で作成) ・技術確認	
8	／ ()	活動・休息援助技術	①基本的活動の援助 ・基本的活動の基礎知識 /体位 (レポート課題)	
9	／ ()	活動・休息援助技術	①基本的活動の援助 ・体位変換 /移動 /移乗・移送 DVD	
10	／ ()	タスクレーニング(実習室)	①基本的活動の援助 体位 /体位変換	
11	／ ()	タスクレーニング(実習室)	①基本的活動の援助 移乗・移送 (ストレッチャー・車いす)	
12	／ ()	活動・休息援助技術	①睡眠と休息の援助 ・援助の基礎知識、援助の実際	
13	／ ()	苦痛の緩和・安楽の確保の技術	①体位保持 ・演習: 体位保持、ポジショニング、電法、冷電法	
14	／ ()	タスクレーニング(実習室)	「苦痛の緩和・安楽確保の技術」 ・電法 ・冷電法	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント: 自己学習の時間を有効に活用してください。 看護技術の試験および臨地実習に向けて、技術練習をしてください。				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ環境調整・活動休息・苦痛の緩和の援助技術について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅳ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的: 基本的な日常生活行動への援助技術である清潔・衣生活援助技術について対象の生活行動に配慮した援助、羞恥心に配慮した援助技術を学ぶ				
目標: 清潔・衣生活援助技術について理解し活用できる				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1・2を総合して判定する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
2	／ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・清潔援助の効果 ・患者状態に応じた援助の決定と留意点	
4	／ ()	衣生活の援助	病床での衣生活の援助 ・衣服を用いることの意義 ・病衣の選び方	
12	／ ()	清潔の援助(整容)	清潔援助の基礎知識 ・整容の基礎知識	
6	／ ()	タスクレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・全身清拭援助の実際(部分演習) ・安全な物品準備	
7	／ ()	タスクレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・全身清拭援助の実際(全身演習)	
1	／ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・皮膚粘膜の構造と機能 ・口腔の構造と機能 ・清潔援助の効果	
13	／ ()	タスクレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・口腔ケア援助の実際	
5	／ ()	タスクレーニング(実習室)	病床での衣生活の援助 ・病衣、寝衣の交換の援助の実際 ・点滴、ドレーン等を留置している患者の寝衣交換の援助の実際	
3	／ ()	タスクレーニング(実習室)	清潔援助の基礎知識と実際 ・入浴、シャワー浴の基礎知識 ・入浴、シャワー浴援助の実際	
8	／ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・洗髪、足浴、手浴援助の基礎知識	
9	／ ()	タスクレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・洗髪、足浴、手浴援助の実際	
10	／ ()	清潔の援助	清潔援助の基礎知識 ・陰部洗浄の基礎知識	
11	／ ()	タスクレーニング(実習室)	清潔援助の実際 ・陰部洗浄援助の実際	
14	／ ()	技術テスト	全身清拭・寝衣交換技術試験	
15	／ ()	テスト	筆記試験	
履修者へのコメント: 実技テスト・臨地実習に向けて自己学習を活用してください				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ清潔・衣生活の援助技術について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名		内 訳	開講時期	単 位／時間
基礎看護学方法論Ⅴ		講義	1年次前期	1単位／30時間
目的: 基本的な日常生活行動への援助技術である食事援助技術、排泄援助技術について、人間にとって口から摂取したものが、多くの臓器を通過し排泄するまでの一連の過程の意義理解した上での援助、羞恥心に配慮した援助方法学ぶ 目標: ①食事援助の技術について理解し活用できる ②排泄の援助技術について理解し活用できる				専任教員
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内 容	担当者
1	／ ()	食事援助技術	①食事援助の基礎知識 ・栄養状態および食欲 ・摂食能力のアセスメント ・医療施設で提供される食事	
2	／ ()	食事援助技術	②食事介助 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・食事介助の実際(DVD)	
3	／ ()	食事援助技術	③摂食・嚥下訓練 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・摂食・嚥下訓練(DVD)	
4	／ ()	食事援助技術	④非経口的栄養摂取の援助 ・経管栄養法 ・中心静脈栄養法 ・経管栄養法/中心静脈栄養法(DVD)	
5	／ ()	タスクトレーニング(実習室)	・食事介助(常食介助、水分摂取介助)	
6	／ ()	排泄援助技術 【課題提示】 【資料】	・自然排尿および自然排便の基礎知識 ・自然排尿および自然排便の介助の実際 ・自然排尿および自然排泄の介助の実際 課題: 紙おむつに排泄してみる。(提出 月 日)	
7	／ ()	排泄援助技術 【DVD】 【資料】	・排泄行動が制限された患者への排泄の援助方法 ・トイレにおける排泄介助 ・ポータブルトイレでの排泄介助 ・床上排泄介助 DVD視聴(おむつを用いた排泄援助)	
8	／ ()	タスクトレーニング(実習室)	排便を促す援助 ・便器、尿器による排泄	
9	／ ()	排泄援助技術【DVD】【資料】	排便を促す援助 ・排便を促す援助の基礎知識 ・浣腸(グリセリン浣腸、高圧浣腸)・摘便 DVD	
10	／ ()	タスクトレーニング(実習室)	排泄援助技術 ・臥床患者のパット交換(男女のモデルを実施)	
11	／ ()	タスクトレーニング(実習室)	排泄援助技術 ・臥床患者のおむつ交換(男女のモデルを実施)	
12	／ ()	タスクトレーニング(実習室)	排泄援助技術 ・陰部モデルを使用し、グリセリン浣腸を実施する。	
13	／ ()	排泄援助技術 【DVD】 デモンストレーション	排泄援助技術 DVD ・導尿(一時的導尿 持続的導尿) ・援助の基礎知識 援助の実際	
14	／ ()	排泄援助技術 演習	排泄援助技術 ・ストーリーメイク 援助の基礎知識 援助の実際	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、食事援助から排泄の援助技術を一連のメカニズムの意義を通じて教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅵ	講義 演習	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的：診断・治療過程に関わる援助方法である、呼吸・准看を整える技術、創傷管理技術について対象の心理や身体的状態を理解した上で援助方法を学ぶ				
目標：①呼吸・循環を整える技術について理解し、活用できる（第Ⅶ章） ②創傷管理援助技術について理解し、活用できる（第Ⅷ章）				
評価方法：筆記試験、提出物、授業態度を総合的に判断する				
回	月／日	授業項目	内容	担当教員
1	／	呼吸・循環を整える援助 呼吸器の基礎知識	呼吸のメカニズム	
2	／	呼吸・循環を整える技術 酸素療法	1. 酸素療法汚の適応 2. 酸素投与器具とその特徴 3. 酸素ボンベの取り扱いと酸素残量の計算	
3	／	呼吸・循環を整える技術 吸引・吸入療法	1. 吸引の種類と適応 2. 吸入療法の適応と種類	
4	／	呼吸・循環を整える技術 胸腔ドレーン管理	1. 胸腔ドレナージの適応と仕組み 2. 胸腔ドレーン管理と観察項目	
5	／	呼吸・循環を整える技術 人工呼吸器療法	1. 人工呼吸療法の種類と適応 2. 自発呼吸と人工呼吸器の違い、合併症	
6	／	呼吸・循環を整える技術 排痰ケア	1. 排痰ケアの種類と適応 2. X・Pの見方と排痰ケア	
7	／	呼吸・循環を整える技術 体温管理と末梢循環管理	1. 体温調節のメカニズムと発熱時の看護 2. 末梢循環促進ケアの種類と適応	
8	／	創傷管理技術 創傷管理の基礎知識	1. 皮膚の構造と機能 2. 創傷治療過程とメカニズム	
9	／	創傷管理技術 創傷処置	1. 外科手術創とドレーン創 2. 創洗浄と創保護、スキンケア	
10	／	創傷管理技術 褥瘡予防	1. 褥瘡発生のメカニズムと発生要因 2. 褥瘡のリスクアセスメントとその種類	
11	／	演習 体位ドレナージ 呼吸理学療法 末梢循環ケア	1. 体位ドレナージ 2. 呼吸理学療法 3. 末梢循環促進ケア	
12	／	演習 包帯法、止血法	環軸包帯の巻き方、三角巾による固定方法 直接圧迫止血、関節圧迫止血	
13	／	演習 褥瘡予防の姿勢と体位 ポジショニング	各種体位によるポジショニング	
14	／	演習 ドレッシング材の貼付、創傷管理	1. ドレッシング剤の貼り方、固定、観察 2. 創の洗い方	
15	／	終講試験	筆記試験	
履修者へのコメント：知識の習得はもちろんですが、本科目は演習の多い科目です。皆で楽しく、のびのびと演習をし、技術の獲得をしていきましょう。				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野① 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護が見えるVOL1 ①臨床看護技術（メディックメディア）創傷管理技術 看護が見えるVOL2 ②臨床看護技術（メディックメディア）呼吸、循環を整える技術				
備考：呼吸療法認定士としての臨床経験を有する教員等で授業展開・演習展開を行う。 今までの臨床経験・教育経験を踏まえ、対象の診断・治療過程の援助について心理・身体面を理解したうえで教授する。				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅶ		講義・演習	1年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:診断・治療過程に関わる援助方法である救命救急処置技術、症状・生体機能管理技術、診察・検査・処置の介助技術について対象の心理や身体的状態を理解した上で援助方法を学ぶ					
目標:①救命救急処置技術について理解し活用できる ②症状・生体機能管理技術について理解し活用できる ③診察・検査・処置の介助技術について理解し活用できる					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業・演習への参加態度・状況、レポート提出(10%)					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者	
1	／ ()	救命救急処置技術	1. 救命救急処置の基礎知識 ・救急対応の考え方 ・急変時における初期対応 ・トリアージ		
2	／ ()	救命救急処置技術	・急変時における初期対応 ・トリアージ		
3	／ ()	救命救急処置技術	2. 心肺蘇生法 ・心肺蘇生法の基礎知識 ・一次救命処置の実際 ・二次救命処置について		
4	／ ()	救命救急処置技術	3. 止血法①援助の基礎知識②援助の実際 4. 院内急変時の対応①援助の基礎知識 ②援助の実際		
5	／ ()	症状・生体機能管理技術	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 ①血液検査 ・動脈血採血の介助 ・血糖測定		
6	／ ()	症状・生体機能管理技術	②尿検査1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 ・検体の採取・尿試験紙検査 ③便検査1) 援助の基礎知識2) 援助の実際(採便法) ④喀痰検査1) 援助の基礎知識2) 援助の実際		
7	／ ()	症状・生体機能管理技術	3. 生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②SpO2モニター ③血管留置カテーテルモニター		
8	／ ()	診察・検査・処置における技術	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 ①X線撮影②コンピュータ断層撮影(CT) ③磁気共鳴画像(MRI)④内視鏡検査		
9	／ ()	診察・検査・処置における技術	⑤超音波検査 ⑥心電図検査⑦肺機能検査(スパイロメリー) ⑧採血検査		
10	／ ()	診察・検査・処置における技術	3. 穿刺の介助 ・胸腔穿刺 ・腹腔穿刺		
11	／ ()	診察・検査・処置における技術	3. 穿刺の介助 ・腰椎穿刺 ・骨髄穿刺		
12	／ ()	タスクレーニング(実習室)	静脈血採血		
13	／ ()	タスクレーニング(実習室)	採血(翼状針・直針)		
14	／ ()	タスクレーニング(実習室)	採血(真空管採血)		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 演習・看護がみえる②臨床看護技術					
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。					

		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅷ	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的:対象に応じた与薬の援助方法を学ぶ				
目標:①安全な与薬の原則・方法を理解する ②薬剤の種類や性質を理解する ③薬剤の管理、保管方法について理解する ④与薬の技術について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(60%) 2.授業・演習への参加態度・状況、レポート提出(10%) 3. レポート30%				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	与薬の基礎知識	1.与薬時の看護師の責務 2.与薬を安全に行うためのルール 3.薬剤の基本的性質	
2	／ ()	与薬の基礎知識	・与薬の援助方法 1) 内服薬、外用 2) 与薬と安全 ①経口与薬n・援助の基礎知識 ・援助の実際 ②吸入 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	
3	／ ()	与薬の基礎知識	③点眼・援助の基礎知識 ・援助の実際 ④点鼻・点耳 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 ⑤経皮的与薬・援助の基礎知識 ・援助の実際 ・援助の実際	
4	／ ()		⑥直腸内与薬・援助の基礎知識 ・援助の実際	
5	／ ()	注射の基礎知識	1. 注射の基礎知識 ①技術の概要 ②注射の方法の種類 ③注射筒と注射針 ④実施上の責任	
6	／ ()	注射の基礎知識 計算機持参	注射に必要な計算	
7	／ ()	注射の基礎知識	⑤注射の準備 ・薬液吸い上げのための準備 ・薬液の吸い上げ(アンプル) ・薬液の吸い上げ(バイアル) ・高カロリー輸液や抗がん薬の準備	
8	／ ()	注射の基礎知識	2. 注射の実施方法 1)皮下注射 2)皮内注射 3)筋肉注射	
9	／ ()	注射の基礎知識	3)静脈内注射 ①ワンシヨット ②点滴静脈内注射 ・翼状針による点滴静脈内注射 ・静脈留置針による点滴静脈内注射 ・輸液ラインと静脈留置針の交換時期	
10	／ ()	注射の基礎知識	③中心静脈カテーテル留置の介助 ・中心静脈カテーテルと輸液ライン交換 ・カテーテル関連血流感染の基礎知識 ④輸血の介助	
11	／ ()	与薬の技術 タスクトレーニング(実習室)	与薬 内服、点眼、点鼻、点耳、坐薬	
12	／ ()	与薬の技術 タスクトレーニング(実習室)	注射 アンブル、バイアル、血糖測定、皮下注 筋肉注射	
13	／ ()	与薬の技術 電卓持参 タスクトレーニング(実習室)	注射 静脈内注射(ワンシヨット)、留置針	
14	／ ()	与薬の技術 電卓持参 タスクトレーニング(実習室)	注射 輸液管理(手動、ポンプ、高カロリー、輸血)	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 演習・看護がみえる②臨床看護技術				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。 1.演習は指定した服装で参加して下さい 2.髪色、爪などの身だしなみの出来ない学生は演習参加できません				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護過程と臨床判断	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的:看護の目的を達成するための科学的方法である看護過程の概念と構成要素を看護理論を活用して学ぶ 目標:①看護過程を使って看護を行う利点とその使い方を理解し活用できる ②模擬患者(紙上事例)に対して看護過程を展開できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	看護過程とは	①看護過程とは ②看護過程の意味 ③看護過程を活用する意義	
2	／ ()	看護過程とは	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関連性	
3	／ ()	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	①問題解決過程 ②クリティカルシンキング	
4	／ ()	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	③倫理的配慮と価値判断 ④リフレクション	
5	／ ()	看護記録	①看護記録とは ②記載・管理における留意点	
6	／ ()	看護記録	③看護記録の構成	
7	／ ()	看護過程展開の各段階	①アセスメント(情報の収集と分析) ②看護問題の明確化(看護診断)	
8	／ ()	看護過程展開の各段階	③看護計画 ④実施	
9	／ ()	看護過程展開の各段階	⑤評価	
10	／ ()	看護診断を用いた看護過程の展開	①看護診断とは ②情報収集とは データベースの作成 ③看護診断を抽出するためのアセスメント	
11	／ ()	看護診断を用いた看護過程の展開	④データベース、アセスメントから看護診断を導く ⑤多角的なアセスメントの視点 観察・アセスメントから判断へ	
12	／ ()	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
13	／ ()	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
14	／ ()	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント: これまで学習した解剖学、生化学、栄養学等の知識を想起し、看護を考えていきましょう				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) NEW実践!看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版(学研) NANDA-Ⅰ看護診断ハンドブック 定義と分類2024-2026 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護過程における思考過程を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
救命救急処置	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:①看護師として緊急時に必要な救命救急処置技術を理解した上で援助方法を学ぶ ②看護実践のあらゆる場面において死の看取りの援助について科学的根拠に基づいて学ぶ 目標:①救急処置、応急処置に必要な知識の習得をする ②あらゆる場面に共通する死の看取りの援助について理解し活用できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業・演習への参加態度・状況、レポート提出(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)	①救命救急処置の基礎知識 ・救急対応の考え方 ・急変時における初期対応 ・トリアージ	
2	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
3	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
4	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
5	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
6	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
7	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
8	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
9	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
10	／ ()	BLS講習 タスクトレーニング(実習室)		
11	／ ()	死の看取りの援助①	①死亡の場所とケア ・死の動向 ・死亡の場所 ・死亡の場所の特徴とケアの課題 ②死にゆく人と周囲の人々へのケア	
12	／ ()	死の看取りの援助②	③我が国の風習に根づく死後の処置のあり方 ・日本文化のなかの葬送儀礼 ・葬送儀礼と看護	
13	／ ()	死の看取りの援助③	④死後の処置 ・援助の基礎知識 ・援助の実際	
14	／ ()	死の看取りの援助④	・葬儀屋	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 演習・BLSヘルスケアプロバイダーマニュアル				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域と暮らし	講義	1年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的：在宅療養者の住む地域と暮らしを知り、在宅における看護師の役割と機能を学ぶ				
目標：①在宅看護の実践の場の地域を知り状況を共有することができる ②在宅ケアにおける看護活動の在り方と看護職の役割を理解する ③在宅看護に関わる法律・制度を理解する				
評価方法:1.筆記試験(50%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 3. 地域活動レポート(40%) 1と2と3を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	在宅看護の概念	・在宅看護が必要とされる背景と根拠 ・日本の在宅看護の変遷 ・「在宅看護論」創設の目的	
2	/ ()	在宅看護の目的と特徴	・在宅ケアの基盤 ・在宅看護がめざすもの ・在宅看護の特徴・特性・提供方法	
3	/ ()	在宅療養の支援	・在宅看護の対象者 ・家族への支援	
4	/ ()	在宅看護の制度	・在宅看護にかかわる法令・制度 ・さまざまな社会資源	
5	/ ()	地域探検	幸手市・久喜市・加須市の地域の実態を知る。人口分布・交通機関・買物場所等	
6	/ ()		幸手市・久喜市・加須市の人口動態(出生・死亡・世帯数)高齢者の状況・在宅療養者・医療施設・集う場所・交流の場等	
7	/ ()	地域探検発表会	今後関わる地域の実態を知り、地域の中での看護師の役割を考え共有する	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基礎 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、在宅看護の概要について教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
暮らしを支える看護Ⅰ	講義	1年次 前期	1単位／30時間	専任教員
目的:地域で療養または生活をする対象とその家族の特徴を理解し、保健・医療・福祉と連携した看護活動について学ぶ				
目標:①地域における看護活動の特徴と看護の機能・役割について理解する ②在宅看護に関わる制度・法令と支援に必要な社会資源の活用を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	在宅看護の目的と特徴	地域・在宅看護を学ぶ背景 地域・在宅看護の目指すもの 在宅看護における看護師の役割と機能	
2	／ ()	在宅看護の対象者	地域・在宅看護の対象者 ・地域における多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性	
3	／ ()	在宅看護の対象者	家族の理解 地域に暮らす対象者の理解と看護	
4	／ ()	地域における暮らしを支える看護	暮らしを支える地域・在宅看護 暮らしの環境を整える看護 看護の対象と提供方法 地域における家族への看護	
5	／ ()	地域における暮らしを支える看護	ライフステージに応じた看護 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策	
6	／ ()	地域・在宅看護実践の場と連携	地域・在宅看護実践の場 地域・在宅看護における多職種連携	
7	／ ()	在宅療養者と家族の支援	地域・在宅看護の対象者	
8	／ ()	在宅療養者と家族の支援	在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 在宅療養の場における家族のとりえ方	
9	／ ()	在宅療養者と家族の支援	在宅療養者の家族への看護	
10	／ ()	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	地域アセスメント 地域包括ケアシステム 療養の場の移行に伴う看護 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	
11	／ ()	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	
12	／ ()	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	介護保険・医療保険制度 地域・在宅看護に関わる医療提供体制	
13	／ ()	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	訪問看護の制度	
14	／ ()	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	地域保健にかかわる法制度 高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度 権利保障に関する制度	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ(医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、在宅看護の概要について教授する				

授業科目名の区分		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
暮らしを支える看護Ⅱ		講義	2年次 前期	1単位／30時間	専任教員
目的:在宅における療養者・家族に対して看護を展開するために必要な看護の知識・技術・アセスメント方法のついて学び、在宅看護の基礎を学ぶ					
目標:①在宅療養者とその家族を理解し、基本的な援助方法を理解することができる ②在宅看護の対象理解に必要なアセスメント方法が理解できる					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	地域・在宅看護の実践	「暮らしている人」への看護とは		
2	／ ()	暮らしを支える看護技術	暮らしの場で看護をするための心構え セルフケアを支える対話・コミュニケーション		
3	／ ()	暮らしを支える看護技術	地域・在宅看護における家族を支える看護		
4	／ ()	暮らしを支える看護技術	地域・在宅看護における安全を守る看護		
5	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	療養環境調整のアセスメントと実際		
6	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	活動・休息のアセスメントと実際		
7	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	食生活・嚥下のアセスメントと実際		
8	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	排泄のアセスメントと実際		
9	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	清潔・衣生活のアセスメントと実際		
10	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	呼吸・循環のアセスメントと実際		
11	／ ()	地域における暮らしを支える看護実践	苦痛の緩和・安楽の確保のアセスメントと実際 創傷管理のアセスメントと実際 与薬のアセスメントと実際		
12	／ ()	地域・在宅における時期別の看護	健康な時期 外来受診期 入院時期 在宅療養準備期		
13	／ ()	地域・在宅における時期別の看護	在宅療養移行期 在宅療養安定期 急性増悪期 終末期 在宅療養終了期		
14	／ ()	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働	多職種連携 ・地域・在宅看護における連携 ・医療、福祉、介護関係者との連携		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ(医学書院)					
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、在宅看護の概要について教授する					

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
家族看護学	講義・演習	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:家族機能を高め、意思を尊重し、健康増進にむかうよう、入院・地域における家族看護を展開できる能力を養う				
目標: 1.家族看護の発展と家族の多様性、家族問題について理解できる 2.家族を捉える諸理論と多様な価値観をもつ家族を尊重できる 3. 家族アセスメントの方法を説明できる 4. 家族の発達段階に応じた、家族に対する援助の方向性を説明できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	家族看護とは	①家族看護の発展と変遷 ②家族看護の目的と特徴 ③家族看護の定義	
2	／ ()	家族看護の対象理解	①家族とは、家族を取り巻く社会的背景の変化 ②家族の健康とは ③家族のヘルスプロモーションについて ④家族構造の把握方法(ジェノグラム、エコマップ)	
3	／ ()	家族看護の対象理解	⑤家族の機能について ⑥現代の家族と課題 ⑦現代の家族の特徴	
4	／ ()	家族看護を支える理論と介入法	①家族発達論 ②家族ストレス対処理論 ③家族システム理論 ④家族に変化をもたらすための介入について	
5	／ ()	家族看護展開の方法	①カンガリー家族アセスメントモデル・介入モデル ②家族看護過程 ③情報収集におけるポイント	
6	／ ()	事例に基づく家族看護学の実践	①急性期患者の家族看護 ②入院治療を受ける患児をもつ家族看護 ③終末期患者の家族看護 ④終末期患者の家族の特徴	
7	／ ()	事例に基づく家族看護学の実践	①高齢患者の家族看護 ②高齢者の家族看護の特徴 ③精神疾患患者の家族看護 ④家族療法、家族心理教育 ⑤精神看護における家族看護の特徴	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 家族看護学(医学書院)				
備考:				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
在宅療養を支える看護Ⅰ	講義・演習	3年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:在宅で行われている医療処置とその管理について学ぶ 事例に基づく看護過程の展開の考え方と方法を学ぶ 目標:①在宅療養者とその家族への医療的援助方法が理解できる ②看護展開に必要な情報の整理、計画立案、記録評価が理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	・在宅での医療処置の現状 ①在宅酸素療法(HOT) ②在宅人工呼吸療法(NPPV)	
2	／ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	③経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG) ④インスリン療法	
3	／ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	⑤膀胱洗浄 ⑥ストーマケア	
4	／ ()	在宅療養を支える医療・処置・管理の支援と教育	⑦持続携帯式腹膜透析(CAPD) ⑧エンゼルケア	
5	／ ()	在宅における看護過程の展開	①在宅看護過程の構成要素 ②情報収集・アセスメント	
6	／ ()	在宅における看護過程の展開	③在宅療養を継続できる計画 ・看護師不在時間帯の保障 ・本人、家族が継続して実施	
7	／ ()	在宅における看護過程の展開	④看護目標に沿ったアウトカム、評価日設定 ⑤リアセスメントと計画の修正	
8	／ ()	在宅における看護過程の展開	⑥看護記録と評価 ・記録の重要性 ・計画と実施、評価の連動性	
9	／ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・情報の収集項目 情報の整理	
10	／ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・アセスメント	
11	／ ()	紙上事例による看護過程の展開	事例による看護過程の展開 ・看護計画立案	
12	／ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・目指す看護の明確化 達成期間の想定	
13	／ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・情報の変化、評価のフィードバックによる看護計画の修正	
14	／ ()	紙上事例による看護過程の展開	【事例による看護過程の展開】 ・看護記録の内容と評価方法	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1・2 (医学書院)				
備考:在宅看護の看護過程を学習し思考過程を学ぶ。対象に応じた援助を教授する。				

授業科目名の区分		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
在宅療養を支える看護Ⅱ		講義・演習	3年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的:生活する場に訪問する看護職の姿勢を理解し、在宅療養者・家族との信頼関係形成のあり方を学ぶ					
目標:①訪問看護師の役割について考え、療養者・家族への接し方や訪問マナーを身に付けることができる ②学生自ら在宅看護サービスの実際を企画し、体験ワークを通して既習学習の理解を深めることができる					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月/日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	/ ()	在宅看護論における実習の手引き	①実習にむけた心構え ②服装や身だしなみ ③態度と行動 ④実習における学習方法 ⑤感染予防 ⑥事故・災害等発生時の対応 ⑦個人情報の取り扱い		
2	/ ()	訪問看護倫理要綱	①在宅看護の対象者の権利 ②訪問看護師の使命、「療養生活支援の専門家」としての誇りと自律性 ③訪問看護師の実践上の責任 ④訪問看護師とケアチーム		
3	/ ()	訪問に向けた安全管理(セーフティケアマネジメント)	・医療・ケア事故 ・感染予防対策 ・情報管理 ・医療廃棄物処理方法		
4	/ ()	在宅看護演習	・在宅でのコミュニケーション・面接技術(1)		
5	/ ()	在宅看護演習	・在宅でのコミュニケーション・面接技術(2) ・ロールプレイを通して訪問看護の役割の理解を深め、自己の学びを深める		
6	/ ()	在宅看護演習	・視覚障害者体験を通し、在宅療養者および介護者への共感的理解を学び自己の考えをまとめる		
7	/ ()	在宅看護演習	・高齢者体験を通し、在宅療養者および介護者への共感理解を学び自己の考えをまとめる		
8	/ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(医学書院)1・2					
備考:生活する場に訪問する看護職の姿勢や、在宅療養者・家族との信頼関係形成のあり方を教授する。					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学概論	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的：成人看護の対象である「大人」の生活と健康に関する知識を学び、多様な健康状態や健康問題に対応するために必要な考え方や看護実践の在り方を理解する				
目標：①成人期にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴について説明できる ②成人期にある対象の健康の現状と動向を理解し、看護の役割について述べるができる ③成人看護において適応する理論やモデルを学び看護の介入方法を考察することができる				
評価方法：授業の出席時間数・参加態度・筆記試験・提出物で総合的に評価する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1・2	／ ()	成人期にある人の特徴	成人期にある対象の理解 1)発達課題 2)身体的・心理的・社会的特徴 3)成人の生活習慣 4)成人を取り巻く環境	
3	／ ()	健康をおびやかす要因と看護	①生活習慣に関連する健康問題 ②職業に関連する健康問題 ③ストレスに関連する健康問題	
4	／ ()	ヘルスプロモーションと看護	①ヘルスプロモーションと看護 ②ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	
5	／ ()	職業を持つ成人の健康	企業看護師の取り組み(産業保健)	
6	／ ()	生活習慣病予防への取り組み	自治体(保健センター)における生活習慣病予防事業	
7	／ ()	成人への看護アプローチ	成人への看護アプローチの基本	
8	／ ()	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	①健康の急激な破綻 ②急激な健康破綻をきたした人への看護 ③救急医療を必要とする人々	
9	／ ()	慢性病との共存を支える看護	①慢性病患者の理解 ②慢性病との共存を支える看護の実践 ・エンパワメント ・セルフマネジメントの推進	
10	／ ()	障害がある人の生活とリハビリテーション	①障害がある人とリハビリテーション ②障害がある人とその生活を支援する看護	
11	／ ()	人生の最期のときを支える看護	①終末期医療の現状と概念 ②人生の最期のときを過ごしている人の理解 ③人生の最期のときを支える看護	
12	／ ()	がんに罹患している人々の看護	①がん患者の抱える苦痛と生活上の困難 ②がん患者の治療と看護 ③がんとの共生を支える看護	
13	／ ()	健康レベル・経過に応じた看護技術	①治療過程にある患者への看護技術 ・主体的治療・療養行動促進 ・治療に伴う苦痛軽減、合併症の予防と早期回復 ・日常生活機能の保護・維持と日常生活再構築 ・ボディイメージの変化に対する看護 ②症状マネジメントにおける看護技術	
14	／ ()	療養の場を移行する人々の看護技術	退院支援の看護技術	
15	／ ()	テスト	筆記試験(配点:100点)	
履修者へのコメント:成人看護学は「大人」の健康生活について考えていきます。自分自身の生活、家族や周囲の人々想起しながら学習していきましょう。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅰ	講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:成人期にある対象の特徴と障害に関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する 目標:①成人期に起こりやすい循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の健康障害の特徴を理解する ②成人期に生じる循環機能・呼吸機能・消化吸収機能・栄養・代謝機能障害をもつ対象に必要な急性期・慢性期・終末期においての援助方法を理解する				
評価方法: 授業の出席時間数・参加態度・筆記試験・提出物で総合的に評価する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	【呼吸機能障害のある患者の看護】	①医療の動向と看護 ②患者の特徴③看護の役割 ④呼吸器のフィジカルアセスメント	
2	／ ()	呼吸器疾患の症状に対する看護	⑤症状に対する看護 ・咳嗽・喀痰のある患者の看護・血痰・喀血のある患者の看護 ・胸痛のある患者の看護・呼吸困難のある患者の看護 ・意識障害のある患者の看護	
3	／ ()	呼吸器疾患の検査・処置・治療を受ける患者の看護	⑥検査・治療・処置を受ける患者の看護 ・内視鏡検査を受ける患者の看護 ・呼吸機能検査と換気障害 ・動脈血液ガス分析と検査データの読み方 ・胸部レントゲン写真のみかた ・吸入療法を受ける患者の看護・酸素療法を患者の看護 ・人工呼吸器を装着する患者の看護 ・胸腔ドレナージを受ける患者の看護	
4	／ ()	呼吸器疾患の代表的疾患の看護	⑧疾患を持つ患者の看護 ・慢性閉塞性肺疾患患者の看護・肺がん患者の看護 ⑨呼吸リハビリテーション	
5	／ ()	【循環機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・ポンプ機能障害・刺激伝導障害・血管 リンパ管障害	
6	／ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・心電図・心血管超音波・血管造影・心臓カテーテル	
7	／ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・経皮的冠動脈形成術・冠動脈バイパス術 ・大動脈内バルーンパンピング・ペースメーカー ・植込み型除細動器・血栓溶解療法・血腫除去術	
8	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (心不全 虚血性心疾患 弁膜症 不整脈 閉塞性動脈硬化症)	
9	／ ()	【消化・吸収機能障害のある患者の看護】 【栄養・代謝機能障害のある患者の看護】消化器疾患の症状	①医療の動向と看護②患者の特徴③看護の役割 ④消化器疾患と栄養管理⑤症状に対する看護 ・腹痛のある患者の看護・悪心・嘔吐のある患者の看護 ・吐血・下血のある患者の看護・下痢のある患者の看護 ・便秘のある患者の看護	
10	／ ()	消化器疾患の検査・処置を受ける患者の看護	⑥検査・処置を受ける患者の看護 ・上部内視鏡検査・下部内視鏡検査・イレウス管の管理⑦食道・胃疾患患者の症状と看護・ダンピング症候群⑧肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の症状と看護	
11	／ ()	消化器疾患の検査・処置を受ける患者の看護	⑨大腸疾患患者の症状と看護 ・人工肛門造設患者の看護・ストーマサイトマーキング ・潰瘍性大腸炎患者の看護	
12	／ ()	慢性期・終末期の看護	呼吸器疾患	
13	／ ()	慢性期・終末期の看護	消化器疾患	
14	／ ()	慢性期・終末期の看護	腎疾患	
15	／ ()	筆記試験	呼吸機能障害 (30点)、循環機能障害 (30点)、消化吸収機能障害 (20点)、終末期の看護 (20点) 分の筆記試験	
履修者へのコメント:成人看護学で学ぶ内容は「人体の構造と機能」「疾病と治療」などで学んだことを想起し、根拠を理解ながら学習することでアセスメント能力を身につけましょう				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 呼吸器 成人看護学2 (医学書院)系統看護学講座 専門分野 循環器 成人看護学3 (医学書院)系統看護学講座 専門分野 消化器 成人看護学5 (医学書院)				
備考:				

学科		第一学科			
授業科目名		内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅱ		講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:成人期にある対象の特徴と障害を関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する					
目標:①成人期に起こりやすい腎疾患・内分泌疾患・生殖器疾患の健康障害の特徴を理解する ②成人期に生じる内部環境調節機能・内分泌機能・排尿機能・生殖機能障害をもつ対象に必要な発症期・慢性期においての援助方法を理解する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内 容		担当者
1	／ ()	【内部環境調節機能障害のある患者の看護】	原因と障害の程度のアセスメントと看護 ・(体温 血糖 体液量 電解質 酸塩基平衡)調節障害		
2	／ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・糖負荷試験 ・血糖自己測定 ・静脈性尿路造影 ・腎生検		
3	／ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・薬物療法(インスリン補充、糖尿病経口薬) ・食事、運動療法 透析療法 ・腎移植)		
4	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (低体温症 Ⅰ型、Ⅱ型糖尿病 合併症・		
5	／ ()	【内分泌機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・甲状腺機能障害 ・副腎機能障害 ・下垂体機能障害		
6	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・ホルモン血中・尿中濃度測定 ・ホルモン負荷試験 ・甲状腺ホルモン療法 ・甲状腺切除術		
7	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症 悪性腫瘍)		
8	／ ()	【排尿機能の障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・蓄尿 排尿障害		
9	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・尿流動態検査 ・残尿測定 ・膀胱鏡 ・膀胱切除術 ・前立腺切除術 ・ホルモン療法		
10	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (腎・尿路結石 悪性腫瘍)		
11	／ ()	【性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・性機能障害 ・生殖機能障害 ・ホルモン欠落症状		
12	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・ヒトパピローマウイルス検査 ・マンモグラフィー ・超音波検査(腹部 経膈 乳房) ・勃起障害治療 ・性交 障害治療 ・手術療法 ・ホルモン療法		
13	／ ()	〃 【男性生殖器】	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (前立腺炎 前立腺肥大 腫瘍)		
14	／ ()	〃 【女性生殖器】	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (子宮筋腫 子宮内膜症 卵巣嚢腫 腫瘍 乳癌)		
15	／ ()	筆記試験			
履修者へのコメント:成人看護学で学ぶ内容は「人体の構造と機能」「疾病と治療」などで学んだことを想起し根拠を理解ながら学習することでアセスメント能力を身につけましょう					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 成人看護学6 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学8 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 成人看護学9 (医学書院)					
備考: ※月経異常、更年期障害については母性看護学領域で教授し、成人看護学では子宮、卵巣疾患と乳房疾患を取り上げる					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅲ	講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:成人期にある対象の特徴と障害を関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する 目標:①成人期に起こりやすい血液疾患・アレルギー疾患・膠原病・感染症・脳・神経疾患・運動器疾患・感覚器(眼 耳鼻咽喉 歯・口腔 皮膚)疾患の健康障害の特徴を理解する ②成人期に生じる身体防御機能・脳・神経機能・運動機能・感覚機能の障害をもつ対象に必要な援助方法を理解する				
評価方法: 授業の出席時間数・参加態度・筆記試験・提出物で総合的に評価する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	【身体防御機能の障害のある患者の看護】	血液・造血器の看護1)医療の動向:疾患統計と患者の特徴と看護の役割 2)免疫低下の原因と障害のアセスメント3)心理・社会的問題とその援助4)家族への支援	
2	／ ()	〃	血液機能と造血の仕組み 1)検査について 2)治療とそれに伴う看護	
3	／ ()	〃	がん治療を受ける患者の看護 1)経過と看護 急性期の看護・慢性期の看護・再発時の看護 2)緩和ケア	
4	／ ()	〃	疾患を持つ看護 1)造血器腫瘍患者に共有する看護、インフォームドコンセントにおける看護、がんサイバー支援、治療が期待できなくなった時の看護2)自己免疫疾患 悪性疾患 等	
5	／ ()	【脳・神経機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・生命活動機能調節機能障害 ・運動機能障害 ・感覚機能障害 ・言語機能障害 ・高次脳機能障害	
6	／ ()	〃	検査・処置を受ける患者の看護 ・脳波検査 ・髄液検査 ・脳血管造影	
7	／ ()	〃	治療を受ける患者の看護 ・開頭術 ・穿頭術 ・血管バイパス術 ・血管内治療 ・脳室ドレナージ ・V-Pシャント術 ・低体温療法	
8	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (脳血管障害 脳腫瘍 脳炎 髄膜炎 頭部外傷 脊髄損傷 重症筋無力症 ギランバレー症候群 筋委縮側索硬化症・脳腫瘍)	
9	／ ()	【運動機能の障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・姿勢機能障害 ・移動機能障害 ・作業機能障害	
10	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・関節可動域検査 ・徒手筋力テスト ・脊髄造影 ・膝関節鏡 ・筋生検 ・ギプス固定 ・牽引法 ・人工関節置換術	
11	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断術)	
12	／ ()	【感覚機能障害のある患者の看護】	原因と障害のアセスメントと看護 ・視覚障害 ・聴覚障害 ・嗅覚障害 ・味覚障害 ・触覚障害	
13	／ ()	〃	検査・処置・治療を受ける患者の看護 ・眼底検査 ・聴力検査 ・経鼻内視鏡検査 ・味覚検査 ・眼底光凝固療法 ・網膜剥離治療 ・眼内レンズ挿入 ・鼓室形成術 ・小線源治療	
14	／ ()	〃	疾患を持つ患者の機能障害に応じた看護 (中途視覚障害 突発性難聴 メニエール病 アレルギー副鼻腔炎 膠原病・末梢神経障害)	
15	／ ()	筆記試験		
履修者へのコメント:成人看護学で学ぶ内容は「人体の構造と機能」「疾病と治療」などで学んだことを想起し、根拠を理解ながら学習することでアセスメント能力を身につけましょう				
使用テキスト: 系統看護学講座(医学書院) 専門分野 血液・造血器 成人看護学4、アレルギー・膠原病・感染症、 成人看護学11 脳・神経 成人看護学7 運動器 成人看護学10 眼 成人看護学13 耳鼻咽喉 成人看護学14 歯・口腔 成人看護学15				
備考:				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅳ	講義 演習	2年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的：成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ知識をもとに、急性疾患の発症や周手術期など生命の危機的状況にある患者および家族の援助を学ぶ				
目標：①急性期にある患者と家族の特徴を理解し、生命の危機的状況における看護を理解する ②周手術期に必要な看護を理解し、援助することができる				
評価方法：筆記試験、提出物、授業態度を総合的に判断する				
回	月／日	授業項目	内容	担当教員
1	／	周術期に関連する基礎知識	1. 周術期看護を学ぶにあたって 2. 周術期の体験	
2	／	外科的侵襲から回復までの生体反応	1. 周術期の看護とは 2. 侵襲とは	
3	／	外科的侵襲の種類	1. 手術の種類と分類 2. 身体機能の障害や問題に応じた治療	
4	／	手術過程に応じた看護支援 術前の看護	1. 主体的な手術参加とICへの支援 2. リスクアセスメント 3. 直前の援助	
5	／	手術過程に応じた看護支援 術中の看護①	1. 安全な環境の管理 2. 入室から麻酔同十までの支援 3. 術中の管理	
6	／	手術過程に応じた看護支援 術中の看護②	1. 麻酔覚醒時の支援 2. 病棟への引継ぎ	
7	／	手術過程に応じた看護支援 術後の看護	1. 術後のフィジカルアセスメント 2. 術後合併症とその予防 3. 手術体位の介助	
8	／	手術過程に応じた看護支援 術後の継続看護	1. 術後障害が及ぼす全人的な影響 2. 継続看護の必要性和影響要因	
9	／	手術過程に応じた看護支援 術後の継続看護	1. セルフケア技術の習得を促す援助 2. 継続看護を支える看護師の役割	
10	／	日帰り手術時の看護	日帰り手術を受ける患者への援助	
11	／	GW 演習に向けた意見交換	事例患者に必要な看護の理解	
12	／	演習 各手術期の看護の実際 術前看護	術前看護の実際 手術中における看護師の役割	
13	／	演習 各手術期の看護の実際 術中看護～術直後の看護	術中看護の実際 術直後の看護の実際	
14	／	演習 各手術期の看護の実際 術後看護	術後看護の実際 術後の回復を促進するための援助	
15	／	終講試験	筆記試験	
履修者へのコメント：本科目の内容は成人・老年看護学実習Ⅰに繋がるものです。急性期にある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を捉えて看護を学びましょう				
使用テキスト：系統看護学講座 成人看護学④ナースンググラフィカ メディカ出版 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論・臨床外科看護学各論（医学書院） 系統看護学講座 別館 クリティカルケア看護学・救急看護学（医学書院）				
備考：今までの臨床経験・教育経験を踏まえ、教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅴ	講義・演習	2年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的: 成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅲで学んだ知識をもとに、事例患者から看護過程の展開方法を学ぶ				
目標: ①成人期(回復期・慢性期)の看護を必要とする対象の問題点を明確にできる ②成人期(回復期・慢性期)の看護を必要とする対象の看護目標を設定し援助計画を立案することができる ③計画に基づいた看護を実践(演習)し、行った看護の評価・修正ができる				
評価方法: 授業の出席時間数、参加態度、提出物(事前学習・事後学習)などで総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	看護過程とは(復習) 【講義】	・事前学習「事例疾患の病態生理を調べる」 ①看護過程の展開方法(復習) ②成人期の特徴(身体的・心理的・社会的・発達課題) ③事例紹介「人工肛門造設術後の患者」(回復期) ④病態関連図の作成	
2	／ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護)	・事前学習「情報の整理」 ①情報の整理により導き出す	
3	／ ()	・情報の整理～分析 【講義・演習】	②情報の判断から、分析・解釈(個人ワーク)	
4	／ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・看護問題の明確化～	・事前学習「看護診断の抽出(明確化)」 ①看護問題の優先順位を考える	
5	／ ()	看護目標の設定～ 計画立案 【講義・演習】	②看護目標の設定: 長期目標・短期目標 ③目標を達成するための看護計画立案(個人ワーク)	
6	／ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・看護計画の確認【講義】	・事前学習「看護計画立案(5W1Hで具体的に)」 ①生活の再構築に向けた視点での看護計画 ②個別性のある看護計画 ③行動計画書の記入について	
7	／ ()	看護過程の展開Ⅰ (回復期の看護) ・看護の実践～	・事前学習 「看護計画に基づいた1日の行動計画書作成」 ①「生活の再構築」に向けた援助場面における 看護の実践	
8	／ ()	評価・修正 【シミュレーション演習】	②援助後の患者の反応や観察点から看護計画の 妥当性を評価する(報告・記録) ③看護計画の修正	
9	／ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期・終末期の看護) 【講義・演習】	・事前学習「事例疾患の病態生理を調べる」 ①事例紹介「糖尿病の患者の看護」(慢性期・終末期) ②病態関連図の作成	
10	／ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期・終末期の看護)	・事前学習「情報の整理」 ①情報の整理により導き出す	
11	／ ()	・情報の整理～分析 【講義・演習】	②情報の判断から、分析・解釈(個人ワーク)	
12	／ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期・終末期の看護) ・看護問題の明確化～	・事前学習「看護診断の抽出(明確化)」 ①看護問題の優先順位を考える	
13	／ ()	看護目標の設定～ 計画立案【講義・演習】	②看護目標の設定: 長期目標・短期目標 ③目標を達成するための看護計画立案(個人ワーク)	
14	／ ()	看護過程の展開Ⅱ (慢性期・終末期の看護) ・看護計画の確認～	・事前学習「看護計画立案(5W1Hで具体的に)」 ①「セルフケア獲得」に向けた視点での看護計画	
15	／ ()	指導計画書作成 【講義・演習】	②個別性のある看護計画(指導計画書)作成 (個人ワーク)	
履修者へのコメント: この科目は成人看護学実習につながります。回復期～慢性期にある対象の身体的・ 心理的・社会的な特徴を捉え、今まで学んできた知識を統合し科学的根拠をもとにアセス メントする必要があります。丁寧に事前学習・事後学習に取り組みましょう				
使用テキスト: NANDAーⅠ 看護診断 定義と分析 2024-2025 New実践 看護診断を導く情報収集・アセスメント 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1～21				
備考: 臨床経験をもちに成人期の看護について教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学概論	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師 専任教員
目的:①高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について理解し老年看護に必要な基礎的知識を学ぶ ②高齢期の健康実態、保健・医療・福祉制度の位置づけや各施設における看護の役割について学ぶ 目標:①老年期を生きる人について理解できる ②加齢に伴う変化について理解できる ③高齢社会の保健医療福祉の制度と看護の役割について理解できる ④高齢者の人権と倫理問題について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	老いるということ、老いを 生きるということ	①老いを学ぶ入口 ②老いるということ	
2	/ ()	老いるということ、老いを 生きるということ	③老いを生きるということ	
3	/ ()	高齢社会と社会保障	①高齢社会の統計的輪郭 ②高齢社会における保健医療福祉の動向	
4	/ ()	高齢社会と社会保障	高齢者大学における目的・役割(久喜市役所)	
5	/ ()	老年看護の基盤	①老年看護のなりたち ②老年看護の役割	
6	/ ()	高齢者と家族のかかわり	①高齢者が支える家族の役割	
7	/ ()	高齢者と家族のかかわり	②高齢者を支える家族の役割	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 老年看護学1 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、老年看護学の概要について教授する。				

授業科目名の区分		第一学科			
授業科目名		内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅰ		講義・演習	1年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:高齢者の身体的・心理的・社会的変化に伴う日常生活を理解し、生活機能の維持について援助を学ぶ 目標:①加齢に伴う機能の変化とその看護が理解できる ②高齢者の健康問題と看護について理解できる ③日常生活を支える基本的活動について理解できる ④高齢者の生活機能、生活・療養の場における看護について理解できる					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内 容		
1	／ ()	高齢者のヘルスアセスメント	①ヘルスアセスメントの基本 ②身体に加齢変化とアセスメント ・皮膚とその付属器 ・視聴覚とその他の感覚 ・循環系 ・呼吸器系 ・消化・吸収		
2	／ ()	高齢者のヘルスアセスメント	②身体に加齢変化とアセスメント ・ホルモンの分泌 ・泌尿生殖器と性 ・運動系		
3	／ ()	高齢者の生活機能を整える看護	①日常生活を支える基本的活動 ・基本動作と環境のアセスメントと看護 ・転倒のアセスメントと看護 ・廃用症候群のアセスメントと看護		
4	／ ()	高齢者の生活機能を整える看護	②食事・食生活 ・食生活の注目する意義・高齢者に特徴的な変調 ・摂食・嚥下機能のアセスメント・食事に対する看護		
5	／ ()	高齢者の生活機能を整える看護	③排泄 ・排泄ケアの基本姿勢 ・排泄障害のアセスメントと看護 ・排尿障害のアセスメントと看護・排便障害のアセスメント ④清潔 ・清潔の意義 ・高齢者に特徴的な変調 ・清潔のアセスメント ・清潔の看護		
6	／ ()	高齢者の生活機能を整える看護	⑤生活リズム ・高齢者と生活リズム ・高齢者に特徴的な変調 ・生活リズムのアセスメント・生活リズムを整える看護 ⑥コミュニケーション ・高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方 ・高齢者におこりやすいコミュニケーション障害 ・コミュニケーション障害のアセスメントと看護		
7	／ ()	高齢者の生活機能を整える看護	⑦セクシャリティ ・高齢者におけるセクシャリティ ⑧社会参加		
8	／ ()	治療を必要とする高齢者の看護	①検査を受ける高齢者への看護 ②薬物療法を受ける高齢者の看護 ③リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ④入院治療を受ける高齢者の看護 ⑤手術を受ける高齢者の看護		
9	／ ()	エンドオブライフケア	①エンドオブライフの概念②生きることを支えるケア		
10	／ ()	演習	①老人疑似体験 ②杖歩行・車椅子・歩行器		
11	／ ()	演習	①老人疑似体験 ②杖歩行・車椅子・歩行器		
12	／ ()	生活・療養の場における看護生活 療養の場における看護	①高齢者のヘルスプロモーション ・高齢者のヘルスプロモーション ・介護予防とヘルスプロモーション ・住み慣れた場所で最期までを実現する地域包括ケア ②保健医療福祉施設における看護 ・急性期治療を担う医療施設の特徴と看護 ③保健医療福祉施設における看護 ・療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護 ④介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 ・介護家族の生活と健康 ・介護家族への看護		
13	／ ()	高齢者のリスクマネジメント	①高齢者と医療安全 ・高齢者と医療事故・高齢者特有のリスク要因 ・病院・施設におけるリスクマネジメント ・高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 ②高齢者と救命救急 ・救急を受診する高齢者の特徴		
14	／ ()	高齢者のリスクマネジメント	③高齢者と災害看護 ・災害と災害看護・災害に対する高齢者特有のリスク ・災害のサイクルに伴う看護支援		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)					
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、老年看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。					

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅱ	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:加齢に伴う機能変化、疾患による障害、特有の健康問題を理解し、対象に即した看護が展開できる基礎的知識・技術・態度を学ぶ				
目標:①高齢者の健康のニーズと看護の方向性がわかる ②高齢者の疾患の特徴が理解でき、看護援助がわかる ③高齢者と薬剤の関わりが理解でき、看護援助がわかる				
評価方法:1.筆記試験 2.授業への参加態度・状況 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	高齢者の生理的特徴	①老化と寿命 ②認知・知覚機能の変化 ③呼吸・循環機能の変化 ④代謝・排泄機能の老化 ⑤免疫機能の老化⑥運動機能の老化 ⑦性機能の老化	
2	／ ()	老年症候群	①おもに急性疾患に付随する症候 ・意識障害 ・せん妄 ・熱中症 ・脱水症 ・発熱 ②おもに慢性疾患に付随する症候 ・腰背痛 ・やせ(るいそう)手足のしびれ	
3	／ ()	老年症候群	③おもに慢性疾患に付随する症候・浮腫 ・睡眠障害 ・抑うつ ④おもにADL低下に不随する症候 ・転倒・骨折 ・排尿障害(尿失禁) ・便秘 ・嚥下障害 ・入浴事故	
4	／ ()	高齢者のフィジカルアセスメント	①問診②視診③触診④打診⑤聴診 ⑥血圧測定	
5	／ ()	高齢者のフィジカルアセスメント	⑦画像検査 ⑧心電図⑨検査⑩栄養評価 ⑪在宅でのフィジカルアセスメント	
6	／ ()	高齢者の疾患の特徴	①認知症 ②精神・神経疾患 ③循環器系の疾患 ④呼吸器系の疾患	
7	／ ()	高齢者の疾患の特徴	⑤消化器系の疾患 ⑥内分泌・代謝系の疾患⑦膠原病⑧血液の疾患⑨腎・泌尿器系の疾患	
8	／ ()	高齢者の疾患の特徴	⑩運動器の疾患⑪皮膚の疾患⑫感覚器の疾患 ⑬歯・口腔の疾患 ⑭感染症	
9	／ ()	高齢者と薬	①高齢者の安全な薬物療法 ②高齢者で留意するべきおもな薬剤	
10	／ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	③服薬管理能力のアセスメントと服薬の実際	
11	／ ()	高齢者のリハビリテーション	①腰痛症と四肢関節痛のリハビリテーション ②寝たきり患者のリハビリテーション	
12	／ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	③介護予防のリハビリテーションの実際 ④認知症患者におけるリハビリテーションの実際	
13	／ ()	高齢者に対する看護の方法(技術)演習	食事援助 清潔援助 排泄援助	
14	／ ()			
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 老年看護 老年看護病態・疾患論 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、老年看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅲ	講義・演習	2年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的:高齢者看護の目的を達成するために看護過程の概念と構成要素を学ぶ				
目標:模擬患者(紙上事例)に対して看護過程を展開できる				
評価方法:1.筆記試験(30%) 2.看護過程の展開(70%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	看護過程の展開と実習での学び方のヒント	①看護過程の考え方 (ヘンダーソンの理論を基本にする) ・看護過程の基本 ・高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 ②事例展開の実際 ・事例の状況設定 ・事例の展開	
2	／ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(情報分析・解釈)	
3	／ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(GW)	
4	／ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(関連図・看護計画)	
5	／ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(GW)	
6	／ ()	看護過程の展開(演習)	模擬患者に対する看護計画の実施	
7	／ ()	看護過程の展開	模擬患者に対する看護過程(評価)	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえて、老年看護の看護過程を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学概論	講義	1年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的:小児看護の対象と変遷、小児の社会的現状から、小児看護の理念・役割を学ぶ 目標:①小児看護の変遷や小児の社会的現状から、小児看護の役割(理念・目標)を理解する ②子どもの基本的な権利と用語に関わる法律、小児看護における倫理を理解する ③子どもの成長・発達過程(身体的・知的・社会的特徴)を理解する ④子どもの成長・発達に応じた関わり方、援助の概要を理解する ⑤現代社会における子どもや家族を取り巻く諸問題や課題を理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	小児看護の特徴と理念	①小児看護の目ざすところ ②小児と家族の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤子どもの権利条約の意義と内容 ⑥子どもの基本的な権利と擁護にかかわる法律 ⑦小児看護の課題	
2	/ ()	子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方(一般的原則) ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価	
3	/ ()	新生児	①新生児・形態的特徴・身体生理の特徴・各機能の発達 ・新生児の養育および看護 ②乳児・形態的特徴・身体生理の特徴・感覚機能 ・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能 ・情緒・社会的機能・乳児の養育および看護	
4	/ ()	乳児・幼児	①幼児 ・形態的特徴・身体生理の特徴・感覚機能・運動機能 ・知的機能・コミュニケーション機能・情緒・社会的機能 ・幼児の養育および看護 ②学童 ・形態的特徴・身体生理の特徴・感覚機能・運動機能 ・知的機能・コミュニケーション機能・知的・情緒機能 ・社会的機能・不適応行動・症状・学童を取り巻く諸環境 ・学童の養育および看護	
5	/ ()	学童期・思春期・青年期	①形態的特徴②身体生理の特徴③知的・情緒(心理)的・社会的機能④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷⑩思春期の看護	
6	/ ()	家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは②家族アセスメント	
7	/ ()	子どもと家族を取り巻く社会	①児童福祉 ・児童福祉の歴史・変遷 ・現在の児童福祉(児童福祉施設－乳児院) ②母子保健 ・母子保健の歴史・現在の母子保健 ③医療費の支援 ・未熟児養育医療・小児慢性特定疾患治療研究事業 ④予防接種 ・予防接種の歴史・現在の予防接種 ・副反応と健康被害救済制度 ⑤学校保健 ・学校保健の歴史・健康診断・健康相談・感染予防 ・学校保健活動の推進 ⑥特別支援教育 ⑦臓器移植法	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:小児看護は生命の発生から始まり、成人への移行期まで連続性のある対象として広くとらえる。成長過程の各時期のニーズに応じた支援を提供するための基礎を学ぶ				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①(医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、小児看護の概要について教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅰ	講義・演習	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的:病気・障害を持つ子どもと家族をとりまく社会・環境、疾病の経過やアセスメントの基礎を学ぶ				
目標:①病気や障害を持つ子どもと家族の看護について理解する ②子どもの状況に特徴づけられる看護について理解する ③子どもにおける疾病の経過と看護について理解できる ④子どものアセスメント技術について理解できる ⑤症状を示す子どもの看護について理解できる ⑥検査・処置を受ける子どもの看護について理解できる ⑦障害のある子どもの看護について理解できる ⑧子どもの虐待と看護について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／()	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 ・病気・障害に対する子どもの反応 子どもの病気・障害に対する家族の反応	
2	／()	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	子どもの健康問題と看護 ・健康問題を持つ子どもと家族の看護の方向性 ・子どもの治療・健康管理にかかわる看護 ・子どもの日常生活にかかわる看護 ・健康問題を持つ子どもの家族の看護 インフォームドとプレパレーションの意義	
3	／()	子どもの状況に特徴づけられる看護	入院中の子どもと家族の看護(入院環境)	
4	／()	子どもの状況に特徴づけられる看護	外来・在宅における子どもと家族の看護 外来の特徴と看護の役割 在宅療養の背景 在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護 地域社会の中での生活支援(訪問看護・特別支援学校)	
5	／()	子どもにおける疾病の経過と看護	災害時の子どもと家族の看護 慢性期・急性期にある子どもと家族の看護	
6	／()	子どもにおける疾病の経過と看護	周手術期の子どもと家族の看護 終末期の子どもと家族の看護 事例	
7	／()	子どものアセスメント	①アセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション・バイタルサイン ・身体測定 ②身体的アセスメント ・一般状態 ・目・耳・顔面・鼻・口腔 ③全身のアセスメント・呼吸・心臓・血管系 ・腹部 ・筋・骨格系 ・神経系 ・生殖系・リンパ系 ・皮膚・爪・体毛	
8	／()	症状を示す子どもの看護 グループワーク	①痛み ②呼吸困難③チアノーゼ ④ショック ⑤意識障害 ⑥けいれん⑦発熱 ⑧発疹 ⑨下痢 ⑩便秘 ⑪嘔吐 ⑫黄疸 ⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血	
9	／()	症状を示す子どもの看護	グループワーク発表	
10	／()	検査を受ける子どもの看護	①検査・処置総論・子どもにとっての検査・処置 ・看護の実際(プレパレーション演習は方法論Ⅰ) ②薬物動態と薬用量の決定	
11	／()	処置を受ける子どもの看護	①与薬・点眼・点鼻・注射・輸液管理 ②抑制③検体採取(検尿) ④骨髄穿刺・腰椎穿刺	
12	／()	演習	バイタルサイン(T・P・R・BP)身体計測(身長・体重) おむつ交換・坐浴・与薬	
13	／()	演習	処置を受ける子どもの看護 骨髄穿刺・腰椎穿刺 検尿・尿測 点滴固定演習	
14	／()	障害のある子どもの看護 子どもの虐待と看護	①障害のとらえ方②障害のある子どもと家族の特徴と社会支 ③障害のある子どもと家族への社会的支援 1)虐待の現状 2)リスク要因と発生予防 3)早期発見4)求められるケア	
15	／()		終講試験	
履修者へのコメント:病気・障害を持つ子どもと家族の特徴について理解し具体的技術も学ぶ				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえて、小児看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅱ	講義・演習	2年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:健康障害が小児に与える影響を学び、対象に応じた看護の役割と基本的な援助の方法を学ぶ 目標:①おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる ②疾患を持つ子どもと家族の看護について理解できる ③プレパレーションの方法について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)水村(35点)高橋(35点)プレパレーション(20点)				
1	／ ()	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	出生前後の看護 ・染色体異常概論・常染色体異常・性染色体異常 ・ダウン症候群・18トリソミー症候群	
2	／ ()	新生児の看護	・新生児の疾患・低出生体重児の疾患・成熟異常 ・低出生体重児・新生児仮死・高ビリルビン血症 ・新生児マス・スクリーニング ・先天代謝異常症ーフェニルケトン尿症	
3	／ ()	代謝疾患と看護	・1型・2型糖尿病 ・糖尿病の子どもの看護	
4	／ ()	内分泌疾患と看護免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護	先天性副腎過形成症 ・甲状腺疾患ークレチン症・気管支喘息・若年性特発性関節炎	
5	／ ()	血液・造血管器疾患と看護	・再生不良性貧血・血小板減少性紫斑病 ・IgA血管炎・血友病	
6	／ ()	悪性新生物と看護	・診断時の看護 ・治療を受ける子どもの看護・移行期 ・再燃・再発時造血管器腫瘍ー白血病 ・脳腫瘍・固形腫瘍ーウィルムス腫瘍	
7	／ ()	腎泌尿器および生殖器疾患と看護	・糸球体疾患ー急性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群 /腎疾患	
8	／ ()	神経疾患と看護	・点頭てんかん・熱性けいれん・二分脊椎 ・筋ジストロフィー・けいれん ・脳性麻痺・脳性麻痺	
9	／ ()	運動器疾患と看護	おもな疾患・看護・先天性股関節脱臼 ・先天性内反足・先天性筋性斜頸 ・上腕顆上骨折・側弯症 ・先天性股関節脱臼・先天性内反足 ・先天性筋性斜頸・特発性脊椎側弯症・骨折	
10	／ ()	皮膚疾患と看護眼科疾患と看護耳鼻科疾患と看護	・母斑 ・アトピー性皮膚炎 ・眼科的検査 ・斜頸の手術を受けるの子どもと家族の看護 ・中耳炎の子どもの看護 ・扁桃摘出術を受ける子どもの看護	
11	／ ()	精神疾患と看護	・子どもの心の反応とその特徴 ・情報収集とアセスメント・治療法および支援方法 ③疾患をもった子どもの看護 ・発達障害/神経症圏の疾患 ・統合失調症と双極性障害・抑うつ障害群 ・その他の行動	
12	／ ()	事故・外傷	・子どもの事故の特徴とその要因 ・事故防止と安全教育 おもな事故・外傷と看護 ・不慮の事故総論・頭部外傷・誤飲・誤嚥・溺水 ・熱傷・熱中症	
13	／ ()	演習	子どもの遊びと看護 ・年齢に合わせたプレパレーション プレパレーション作成 事例紹介	
14	／ ()	演習	プレパレーション発表	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学2 (医学書院)				
備考:病態生理に関する知識や小児看護概論、小児看護技術の学習内容を基盤に、健康障害をもつ対象者を理解し、健康状態に応じた看護の考え方を学び、臨地実習に活用できることを教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅲ	講義・演習	2年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的:さまざまな健康状態にある子どもと家族に対して必要な看護と子どもにとっての最善の利益とは何かを学ぶ 目標:①主な小児疾患、症状の看護について理解できる ②疾患を持つ子どもと家族の看護について理解できる ③看護過程の展開をととして、子どもと家族の看護について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
1	／ ()	感染症と看護	①看護総論・子どもの看護のポイント ②おもな疾患・看護 ・麻疹 ・風疹 ・流行性耳下腺炎 ・水痘 ・突発性発疹 ・百日咳 ・猩紅熱 ・手足口病 ・リンゴ病	
2	／ ()	呼吸器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・RSウィルス ・クループ ・肺炎の子どもの看護	
3	／ ()	消化器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患・看護 ・鼠径ヘルニア ・ヒルシュスプルング病 ・急性乳幼児下痢症 ・腸重積症 ・唇裂・口蓋裂・食道閉鎖症 ・肥厚性幽門狭窄症 ・鎖肛 ・胆道閉鎖症	
4	／ ()	循環器疾患と看護	①看護総論 ②おもな疾患 ・総論 ・先天性心疾患—中隔欠損、動脈管開存症、ファロー四徴症 ・川崎病 ・突然死—SIDS ・ファロー四徴症の子どもの看護 ・川崎病の子どもの看護	
5・6・7	／ ()	看護展開 (急性期)	事例展開 川崎病を持つ子どもの看護展開	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:基礎看護学で学んだ看護過程を基礎に小児を対象として成長・発達、健康、家族の三側面ととらえる。事例展開を通して学ぶ。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 小児看護学2 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、小児看護の看護過程を教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学概論	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師
目的：母性看護の概念や現状、対象を理解し、ライフステージ各期に応じた看護実践に必要な基礎知識を習得する。				
目標：①「母性」の概論を理解できる ②母性看護の変遷と現状が理解できる ③母性看護の対象を理解できる ④母子保健行政と母性に関する法律が理解できる ⑤ライフサイクルにおける女性の健康について理解できる ⑥多様な性の在り方や人権の尊重について理解が深められる				
評価方法：1. 筆記試験（90％） 2. 授業への参加態度・状況（10％） 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／（ ）	母性看護の基盤となる概念	①母性とは②母子関係と家族発達 ③セクシュアリティ④リプロダクティブヘルス／ライツ⑤ヘルスプロモーション ⑥母性看護のあり方 ⑦母性看護における倫理 ⑧母性看護における安全・事故防止	
2	／（ ）	母性看護の基盤となる概念対象を取り巻く社会の変遷 リプロダクティブヘルスケア	母性看護の対象を取り巻く環境 ①家族計画 ②性感染症とその予防 ③H I Vに感染した女性に対する看護 ④人工妊娠中絶と看護 ⑤喫煙女性の健康と看護	
3	／（ ）	母性看護の対象の理解	①女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化②女性のライフサイクルと家族 ③母性の発達・成熟・継承	
4	／（ ）	母性看護における看護技術	①母性看護における看護過程 ②情報収集・アセスメント技術 ③母性看護に使われる看護技術	
5	／（ ）	女性のライフステージ各期における看護	①ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ②思春期の健康と看護（月経異常 ③成熟期の健康と看護 ④更年期の健康と看護（更年期障害 ⑤老年期の健康と看護	
6	／（ ）	母性看護の基盤となる概念対象を取り巻く社会の現状	①母性看護の対象を取り巻く環境 子育て世代包括に支援センターについて	
7	／（ ）	外部講師講義	現在の社会情勢で問われている性の在り方や人権問題について（L G B T Q、DV、児童虐待等）	
8		テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学（医学書院）				
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、母性看護の概要について教授する。				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学方法論　Ⅰ		講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的：妊婦前からの女性・家族への支援や、正常な妊娠経過、異常時の看護を学ぶ 目標：①非妊娠時の身体的・精神的・社会的側面を理解し、家族を含めた看護について述べることができる ②妊娠中の身体的・精神的・社会的特徴と、胎児の成長発達を理解し、健やかな妊娠生活を送るために必要な援助について述べることができる ③妊娠の異常を理解し、必要な看護について理解することができる					
評価方法：1. 筆記試験　2. 授業・演習への参加態度・状況　1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者	
1	／　()	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	①子供を産み育てるということ ②母親になるということ ③不妊治療を受けて妊娠した妊産褥婦の姿 ④子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって		
2	／　()	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	①リプロダクティブヘルスケアの必要性 ②遺伝相談　③不妊治療と看護		
3	／　()	妊娠期における看護	①妊娠期の身体的特性 ・妊娠の生理　　・胎児の発育とその生理 ・母体の生理的变化		
4	／　()	妊娠期における看護	②妊娠期の心理・社会的特徴 ・妊婦の心理　・妊婦と家族および社会		
5	／　()	妊娠期における看護	③妊婦と胎児のアセスメント ・妊娠とその診断 ・妊娠期に行う検査とその目的		
6	／　()	妊娠期における看護	③妊婦と胎児のアセスメント ・胎児の発育と健康状態の診断 ・妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント		
7	／　()	妊娠期における看護	④妊婦と家族の看護 ・妊婦が受ける母子保健サービス ・妊婦の保健相談　・教育の実際		
8	／　()	妊娠期における看護	④妊婦と家族の看護 ・妊婦の保健相談の実際　・親になるための準備教育		
9	／　()	妊娠の異常と看護	①ハイリスク妊娠　②妊娠期の感染症　③妊娠疾患		
10	／　()	妊娠の異常と看護	④多胎妊娠　⑤妊娠持続時間の異常 ⑥異所性妊娠（子宮外妊娠）　⑦ハイリスク妊婦の看護		
11	／　()	演習　妊婦体験	妊婦体験から、身体的・精神的・社会的側面への影響を考える		
12	／　()	演習　妊婦の計測 レオポルド触診法 胎児心音聴取	妊娠週数の計算　妊婦の計測：身長　体重　腹囲　子宮底長 レオポルド触診法、胎児心音の確認		
13	／　()	グループワーク	マイナートラブルと予防法①		
14	／　()	グループワーク	マイナートラブルと予防法②		
15	／　()	テスト			
履修者へのコメント：					
使用テキスト：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②（医学書院）					
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、妊娠期看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学方法論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的：正常分娩と分娩各期の看護、異常時の看護について学ぶ				
目標：①分娩時の女性とその家族への看護を理解できる ②分娩の経過を理解できる ③分娩時の異常について理解できる				
評価方法：1. 筆記試験 2. 授業への参加態度・状況 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	
1	／ ()	分娩期における看護	①分娩の要素 ・分娩とは ・分娩の3要素 ・胎児と子宮および骨盤との関係 ・分娩の機序	
2	／ ()	分娩期における看護	②分娩の経過 ・分娩の進行と産婦の身体的変化 ・産婦の身体的変化・産痛・胎児に及ぼす影響 ・産婦の心理・社会的変化	
3	／ ()	分娩期における看護	③産婦・胎児、家族のアセスメント ・産婦と胎児の健康状態のアセスメント ・産婦と家族の心理・社会面のアセスメント ・産婦、家族における看護上の問題の明確化	
4	／ ()	分娩期における看護	④産婦と家族の看護 ・看護目標と産婦のニーズ ・安全分娩への看護 ・安楽な分娩への看護 ・出産体験が肯定的になる(よいお産になる)ための看護 ・基本的ニーズに関する看護 ・家族発達を促す看護	
5	／ ()	分娩期における看護	⑤分娩期の看護の実際 ・分娩第1期の活動期(子宮口開大3～7cmまで)の看護 ・分娩第1期活動期の終盤(減速期：子宮口開大7～8cm以上全開大まで) ・分娩第2期の看護 ・分娩第3～4期の看護	
6	／ ()	分娩の異常と看護	①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児の付属物の異常 ⑤胎児機能不全 ⑥分娩時の損傷 ⑦分娩第3期および分娩直後の異常	
7	／ ()	分娩の異常と看護	⑧分娩時異常出血 ⑨産科処置と産科手術 ⑩異常のある産婦の看護 ⑪異常分娩時の産婦の看護 ⑫分娩時異常出血のある産婦の看護	
8	／ ()	テスト		
履修者へのコメント：				
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2（医学書院）				
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、分娩期看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学方法論Ⅲ		講義・演習	2年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的：正常に経過する褥婦および新生児の看護、異常時の看護について学ぶ 看護過程の展開および技術演習で実際に学ぶ					
目標：①産褥期の女性への看護を理解できる ②早期新生児の生理的特徴と日齢に合わせた経過、看護援助を理解できる ③母性の看護過程（妊娠・分娩・産褥期）について理解できる					
評価方法：1. 筆記試験(80%) 2. 授業・演習への参加態度・状況(20%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	新生児の生理	①新生児とは ②新生児の機能		
2	／ ()	新生児のアセスメント 新生児の看護	①新生児の診断 ②新生児の健康状態のアセスメント ③出生直後の看護 ④出生後から退院までの看護 ⑤生後1か月健康診査に向けた退院時の看護		
3	／ ()	新生児の異常と看護	①新生児仮死 ②分娩外傷 ③低出生体重児 ④高ビリルビン血症 ⑤新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症		
4	／ ()	演習 沐浴	沐浴の実際 新生児の観察の実際		
5	／ ()	産褥期における看護	①産褥経過 ・産褥期の身体的変化 ・産褥期の心理、社会的変化		
6	／ ()	産褥期における看護	②産褥期のアセスメント ・産褥経過の診断 ・褥婦の健康状態のアセスメント		
7	／ ()	産褥期における看護	③褥婦と家族の看護 ・身体機能の回復および進行性変化への看護 ・児との関係確立への看護 ・育児にかかわる看護 ・家族関係再構築への看護		
8	／ ()	産褥期の看護	④施設退院後の看護 ・育児不安と育児支援 ・職場復帰		
9	／ ()	産褥の異常と看護	①子宮復古不全 ②産褥期の発熱 ③産褥血栓症 ④精神障害 ⑤異常のある褥婦の看護		
10	／ ()	演習 子宮復古状態	子宮底・悪露の観察の実際/ 乳頭、乳房の観察		
11	／ ()	看護過程の展開	産褥期の看護過程		
12	／ ()	看護過程の展開	産褥期の看護過程		
13	／ ()	看護過程の展開	産褥期の看護過程		
14	／ ()	看護過程の展開	産褥期の看護過程		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント：					
使用テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 （医学書院マタニティ診断ガイドブック第6版（日本助産診断実践学会））					
備考：備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、産褥期看護の概要・観察・技術の実際とフィジカルアセスメントを教授する。看護過程を教授する。					

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学概論	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師 専任教員
目的: ① 心(精神)の健康について脳科学や精神力動理論、成長発達、社会・環境との関連など 広い視野で学ぶ ② 精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的な変遷を学ぶ ③ 人権尊重・権利擁護、リカバリーについて理解し、精神看護実践の基礎となる考え方 や態度を養う 目標: ① ライフサイクルの各期に起こりやすい精神健康上の問題について説明できる ② 現代社会に精神保健上の主な問題と社会・環境との関係について考察できる ③ 看護師としての基本的姿勢や自らを自己洞察する力を養う				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	心のしくみと人格の発達	精神科の特殊性 精神の構造と防衛機制	
2	/ ()	精神保健の考え方	ストレスとコーピング PTSDとトラウマ	
3	/ ()	精神看護学で学ぶこと	メンタルヘルスとリエゾン看護	
4	/ ()	社会のなかの精神障害	精神医療の歴史	
5	/ ()	精神看護学で学ぶこと	データからみる精神科医療	
6	/ ()	社会のなかの精神障害	精神科領域で必要な法律と制度	
7	/ ()	社会のなかの精神障害	精神看護の課題	
8	/ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)				
備考:精神科看護の概要を理解する				

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅰ		講義	2年次前期	1単位／15時間	外部講師
目的:精神障害の診断と分類について学び、精神科における治療について学習する					
目標:精神疾患の症状、病態、治療方法を理解する					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月/日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	/ ()	関係のなかの人間	全体としての家族		
2	/ ()	関係のなかの人間	人間と集団		
3	/ ()	精神科で出会う人々	精神を病むことと生きること		
4	/ ()				
5	/ ()	精神科で出会う人々	精神症状論と状態像		
6	/ ()				
7	/ ()	精神科で出会う人々	精神障害の診断と分類		
8	/ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院)					
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護の概要を教授する。					

学科		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅱ		講義	2年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的: 自分と相手が看護の基本であり、入院環境を整える必要性を学ぶ					
目標: 人間関係を土台に精神看護の果たす役割が理解できる					
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	精神疾患のあらわれ方	症状とは何か ささまざまな精神症状 精神科の診断基準		
2	／ ()	精神疾患のあらわれ方	統合失調症		
3	／ ()	精神疾患のあらわれ方	気分障害(うつ病)		
4	／ ()	精神疾患のあらわれ方	気分障害(双極障害)		
5	／ ()	精神疾患のあらわれ方	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害		
6	／ ()	精神疾患のあらわれ方	各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調		
7	／ ()	精神科での治療身体を ケアする	精神科治療における薬物療法と副作用の観察ポイント		
8	／ ()	精神科での治療	看護師による服薬への関り電気けいれん療法とその他の 治療		
9	／ ()	精神科での治療	精神療法		
10	／ ()	身体をケアする	睡眠・休息のアプローチ		
11	／ ()	身体をケアする	精神科における身体のケア1) 身体に現れる心の痛み2) 精神科の治療と身体ケア		
12	／ ()	身体をケアする	リスクマネジメント 1) 行動制限の実際		
13	／ ()	身体をケアする	リスクマネジメント 2) 自殺3) 暴力4) 無断離院		
14	／ ()	身体をケアする災害時 のメンタルヘルスケア	リスクマネジメント 1) 緊急事態に対処する 2) 災害時のケア		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)					
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、精神科での治療や看護の基本となる入院環境を教授する。					

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅲ	講義	2年次後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的:精神障害者が地域で生活を継続するための社会制度や支援について学ぶ				
目標:精神障害者の社会復帰、地域との結びつき、重要性について理解できる				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	地域におけるケアと支援	他職種連携 WRAP(クライシスプランの作成)	
2	／ ()	地域におけるケアと支援	地域生活を支えるシステムと社会資源	
3	／ ()	回復を支援する	リカバリーとリハビリテーション 認知行動療法、SST	
4	／ ()	看護の実際	リラクゼーションを体験してみよう	
5	／ ()	ケアの人間関係	プロセスレコードを実際に書こう	
6	／ ()	看護過程(事例展開)	ストレングスマッピングシートの書き方 情報収集	
7	／ ()	看護過程(事例展開)	薬剤の作用・副作用の整理 関連図と分析解釈	
8	／ ()	看護過程(事例展開)	関連図と分析解釈	
9	／ ()	看護過程(事例展開)	看護計画の立案	
10	／ ()	看護の実践	レクリエーションの企画 準備	
11	／ ()	看護の実践	レクリエーションの実際	
12	／ ()	看護の実践	アルコール依存症	
13	／ ()	看護過程(事例展開)	評価 SOAP	
14	／ ()	看護過程	学習の振り返り	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院)				
備考:				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護倫理・看護管理	講義	3年次前期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的: 看護の対象を取り巻くあらゆる資源を活用し、対象者に質の高い看護を提供するための仕組みや看護管理について学ぶ 目標: ①生活体験の中で培ってきた自己の倫理的感受性を養う ②対象に安全で安楽な看護実践を提供するための看護管理の基本を理解する ③組織の一員として必要な医療情報の取り扱いや管理上の諸問題について理解する				
評価方法: 1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	生命倫理	倫理学の基本的な考え方 ①倫理とはなにか ②倫理理論	
2	／ ()	生命倫理	生命倫理 ①生命倫理とはなにか ②生命倫原則・規則 ③インフォームドコンセント ④守秘義務・個人情報保護	
3	／ ()	看護倫理	看護倫理とはなにか ①看護倫理を学ぶ意義 ②看護倫理の歴史 ③看護の倫理原則 ④看護実践上の倫理的概要 ⑤看護実践と倫理	
4	／ ()	専門職の倫理	①社会からみた看護 ②専門職に求められる倫理 ③専門職の倫理綱領	
5	／ ()	専門職の倫理	④看護業務と倫理実践 ⑤保健師助産師看護師法と倫理	
6	／ ()	専門職の倫理	①看護業務と看護倫理②アプローチ方法 ③グループワーク	
7	／ ()	専門職の倫理	①看護業務と看護倫理②アプローチ方法 ③グループワーク	
8	／ ()	看護ケアのマネジメント	①看護管理とは ②マネジメントとは③看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ②患者の権利の尊重	
9	／ ()	看護サービスのマネジメント	③安全管理 ④チーム医療 ⑤看護業務の実践	
10	／ ()	看護サービスのマネジメント	①看護サービスのマネジメント ②組織目的達成のマネジメント ③看護サービス提供のしくみづくり ④人材のマネジメント	
11	／ ()	看護を取り巻く諸制度	⑤施設・設備環境のマネジメント ⑥物品のマネジメント ⑦情報のマネジメント ⑧組織におけるリスクマネジメント ⑨サービス評価	
12	／ ()	看護を取り巻く諸制度	①看護の定義 ②看護職③看護実践の領域と場 ④医療制度	
13	／ ()	マネジメントに必要な知識と技術	①組織とマネジメント ②リーダーシップとマネジメント	
14	／ ()	マネジメントに必要な知識と技術	③組織の調整 ④組織と個人	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践1 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院)				
備考: 臨床で看護師が「患者の権利」「看護師自身の権利」をめぐって倫理的なジレンマの正体を明らかにしながら、看護管理・倫理の視点で、看護師が、看護管理者が、解決に向けてよりよい判断や行動ができるようなヒントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護マネジメント	講義・演習	3年次前期	1単位／30時間	外部講師
目的:看護の対象者のニーズと看護職の知識・技術が合致して、財政的・物質的・人的資源を組織化し、目標に向けて看護職を導き評価するプロセスを学ぶ。 目標:看護の質を保証するためのマネジメントの基礎について理解する				
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する				
回	月／日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	／ ()	看護とマネジメント	①マネジメントとは②看護におけるマネジメント	
2	／ ()	看護ケアのマネジメント	①看護ケアのマネジメント	
3	／ ()	看護ケアのマネジメント	①看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ②患者の権利の尊重 安全管理	
4	／ ()	看護サービスのマネジメント	①看護サービスのマネジメント ②組織目的達成のマネジメント	
5	／ ()	看護サービスのマネジメント	①看護サービスの提供の仕組みづくり	
6	／ ()	看護サービスのマネジメント	①看護サービスの評価:病院機能評価	
7	／ ()	看護サービスのマネジメント	①診療報酬制度、医療計画	
8	／ ()	看護を取り巻く諸制度	①看護におけるマネジメントの変遷②看護の定義 ③看護職④看護実践の領域と場	
9	／ ()	人材マネジメント	①看護職者の教育②キャリア開発	
10	／ ()	物質的マネジメント	①施設・設備環境マネジメント	
11	／ ()	情報マネジメント	①データの可視化・活用・評価・改善	
12	／ ()	継続的な質の保証	①重症度、医療・看護必要度	
13	／ ()	マネジメントに必要な知識と技術	①組織とマネジメント②リーダーシップとマネジメント	
14	／ ()	マネジメントに必要な知識と技術	①組織の調整②組織と個人	
15	／ ()	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 (医学書院) 別巻 看護管理				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、認定看護管理者が看護マネジメントを教授する。				

授業科目名の区分		第一学科			
授業科目名		内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
災害看護・国際看護		講義	3年次前期・後期	1単位／30時間	外部講師
目的:国際看護の基礎知識と看護師の役割を学ぶ 災害が人々の心身に及ぼす影響と災害看護の役割を学ぶ 目標:①国際救助と開発協力における看護師の役割を学ぶ ②災害看護の役割を理解する					
評価方法:1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%) 1と2を総合的に判断する					
回	月／日(曜日)	授業内容	内容		担当者
1	／ ()	国際看護学とは	世界の健康問題の現状 ①人口②地球規模の保健指導③三大感染症④地球温暖化⑥長期化する武力抵抗		
2	／ ()	国際看護の定義	国際看護の定義、国際看護学の対象、 ①災害・紛争被害者・開発途上国に住む人々 ②在留外国人 ③在外日本人④帰国日本人		
3	／ ()	国際看護学に関連する基礎知識	①国際協力 ②開発 ③国際救助 ④国際救助の在り方 ⑤国際救助の在り方⑤国際人権法と国際人道法		
4	／ ()	看護師の国際組織	文化を考慮した看護、看護師の国際組織と国際的な移動①国際看護師協会(ICN)②諸外国の看護制度		
5	／ ()	グローバルヘルス	①インターナショナルからグローバルヘルスへ②プライマリーヘルスとヘルスプロモーション③人間の安全保障④ミレニアム開発目標⑤UHC		
6	／ ()	国際協力のしくみと看護師の役割	①国際救助・保健医療機関、国連機関、政府機関、国際赤十字、国際NGO ②開発協力		
7	／ ()	災害看護学	①災害看護の歩み ②災害医療の基礎知識		
8	／ ()	災害看護学	③災害サイクルに応じた活動現場の災害看護		
9	／ ()	災害看護学	④被災者特性に応じた災害看護の展開		
10	／ ()	災害看護学	⑤災害と心のケア		
11	／ ()	地震災害看護の展開	①発災直後から出動までの看護 ②急性期の看護		
12	／ ()	地震災害看護の展開	③亜急性期の看護 ④慢性期・復興期の看護		
13	／ ()	【国際看護】	①国際看護とは ②グローバルヘルス ③国際協力のしくみ ④文化を考慮した看護 ⑤国際看護活動の展開過程 ⑥開発協力と看護 ⑦国際救援と看護		
14	／ ()	災害看護学・国際看護学における倫理・教育・研究	①災害看護学における倫理・教育・研究 ②国際看護学における倫理・教育・研究		
15	／ ()	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践2 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 災害看護・国際看護 看護の統合と実践3 (医学書院)					
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、国際看護と災害看護の概要について教授する。					

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護の統合と実践Ⅰ	講義・演習	3年次前期・後期	1単位/30時間	専任教員
目的：看護研究の目的・方法・研究過程・研究計画など、看護研究の基礎を学ぶ				
目標：看護研究のテーマを明確にし、研究を実践・発表するための手法と過程を理解する				
評価方法1：授業・演習の参加方法（態度、積極性）、提出物の提出状況				
2：研究成果		1と2を総合的に判断する		
回	月/日	授業内容	内容	担当者
1	/（ ）	看護研究とは	①看護研究の進め方②看護研究の目的・意義 ③看護過程との違い④研究疑問を考える	
2	/（ ）	キーワードとは 研究疑問の明確化	①キーワードの必要性②研究内容に準じたキーワード ③研究疑問の明確化 記載方法 提出日：	
3	/（ ）	研究の種類 文献の質	①研究の種類②論文の種類と質③文献の特徴と質、エビデンス	
4	/（ ）	文献の引用方法とは	①直接引用②間接引用 ③孫引き引用の危④バンクーバー式表記の方法 ⑤グーグルスカラーからの簡易引用方法→iPadを使用	
5	/（ ）	クリティークの方法	①クリティークの目的②他者の論文を批判的に読む	
		仮説の設定	①仮説の設定方法②仮説を元にグループワーク ワークの結果を提出する	
6	/（ ）	研究倫理	①研究倫理とは ②看護研究の各段階における研究倫理 ③研究方法別の倫理的配慮 ④研究倫理違反をした場合の処罰について	
7	/（ ）	研究の流れ	①論文の流れ②各項目の記載事項 ③論文の執筆の作法④研究計画書の説明 提出日：	
8	/（ ）	研究作法	①遵守すべき事項	
9	/（ ）	研究計画書の作成	研究計画書の作成 グループワーク可	
10	/（ ）	抄録 パワーポイント	①抄録の目的、書き方②パワーポイントの作成方法 ＊論文執筆夏休み中に論文の完成を目指す	
11	/（ ）	発表原稿の作成	① 発表原稿の作成② グループワーク可	
12	/（ ）	看護研究の実際	論文執筆、抄録、パワーポイント、発表原稿の修正（リハーサル）	
13	/（ ）	看護研究の実際	論文執筆、抄録、パワーポイント、発表原稿の修正（リハーサル）	
14	/（ ）	看護研究の実際	論文執筆、抄録、パワーポイント、発表原稿の修正【最終】（リハーサル）	
15	9/13(金)	研究成果発表【本試験】 【リクルートスーツ】 【身だしなみを整える】	パワーポイント、発表原稿をもって口頭発表 1限～4限を使用	
履修者へのコメント看護研究は、皆さんが1年生の時から積み上げてきた知識・技術・態度が実を結びます。研究の難しさだけではなく、達成感や楽しさも一緒に学びましょう。				
使用テキスト：古橋洋子：基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE, 第2版, 2020.				
備考・臨床・教育・研究経験を踏まえ、生涯にわたり自己研鑽を続け、看護を追求する心構えができるよう教授する。 ・授業数だけではなく、科目時間外での活動時間を時間割に組み込みを行う。科目時間外での時間も指示がない限りは出席時間とし、 態度を含め「研究に対する取り組み」 として評価対象とする。 ・研究成果発表を本科目の本試験とする。内容および発表技法を十分にブラッシュアップし、本試験に臨むこと。 ・点数に満たない場合は他の科目同様に再試験を課す。期日を含む試験内容については、教員の指示を遵守すること。遵守ができない場合は、再試験を評価の対象としない。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護の統合と実践Ⅱ	講義・演習	3年次前期・後期	1単位／30時間	外部講師 専任教員
目的: 自らの看護技術向上のための学習方法を見出し、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を追及する心構えができる 目標: ①既習の看護技術を振り返り臨床実践に近い形で学習できる ②卒後の臨床現場にスムーズに適応することができることを目的とする ③根拠に基づく看護技術を選択・統合させる確に実践				
評価方法: 1.筆記試験 2.授業への参加態度・状況 1と2を総合的に判断する				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	
1	/ ()	病院・病棟で提供する看護サービスについてGW	・仕事の目的・看護師の行動・安全な看護提供とチームメンバーとの連携	
2	/ ()	安全な看護の提供とチームメンバーとの連携GW	情報共有の必要性和方法(例:SBAR)	
3	/ ()	優先順位・突発事態への対応GW	安全性・安楽性・自立・ 効率性 優先順位の判断と計画・	
4	/ ()	多重課題の計画立案	複数患者の事例に対する行動計画の立案・行動計画内容	
5	/ ()	複数患者への看護実践	事例紹介、患者共有、計画立案	
6	/ ()	複数患者への看護実践 (1人で複数で見る)	輸液管理、輸液(ポンプ)のある患者の清拭 術後の離床(輸液、膀胱留置カテーテル、PCA) 検査説明 胸腔ドレナージ介助、胃管カテーテル挿入実施 検査・手術説明⇒検査・手術前オリエンテーション せん妄患者への経管栄養の実施酸素管理、吸引の必要な患者のシャワー浴介助 呼吸苦のある患者の清拭 検査・手術出し(トランスファー) 認知症患者の安全確保	
7	/ ()			
8	/ ()	複数患者への看護実践 (チームナースングメンバーシップ)		
9	/ ()			
10	/ ()	複数患者への看護実践 (チームナースングリーダーシップ)		
11	/ ()			
12	/ ()	突発事態への対応の実践	状況を踏まえた行動計画立案・実施	
13	/ ()			
14	/ ()	退院支援	地域医療に求められるもの 地域療養を支える制度 退院支援・調整について 在宅を支える訪問看護	
15	/ ()	テスト(筆記・技術)	総合技術	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 基礎分野・専門基礎分野・専門分野・別巻のすべての教科書 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を追及する心構えができるよう教授する。				

学科		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
知識の統合	講義	3年次前期・後期	1単位／30時間	専任教員
目的: 自らの看護知識向上のための学習方法を見出し、生涯にわたり自己研鑽を続け看護を追及する心構えができる 目標: ①既習の学習を振り返り統合して看護師としてまとめの学習できる ②卒後の臨床現場にスムーズに適応する知識を得ることができる。 ③根拠に基づく看護の知識を統合させ必要な基準を到達することができる。				
評価方法: 1.筆記試験 (100%)				
回	月/日(曜日)	授業内容	内容	担当者
1	/ ()	解剖生理(1)	人体の構造と機能について総復習	
2	/ ()	解剖生理(2)	問題事例に合わせた学習	
3	/ ()	疾病と治療・看護(1)	検査・薬理を含めて疾病の治療・看護	
4	/ ()	疾病と治療・看護(2)	検査・薬理を含めて疾病の治療・看護	
5	/ ()	疾病と治療・看護(3)	検査・薬理を含めて治療・看護	
6	/ ()	基礎看護学	問題事例の学習	
7	/ ()	成人看護学・老年看護学 (状況設定事例)	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
8	/ ()	成人看護学・老年看護学 (状況設定事例)	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
9	/ ()	精神看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
10	/ ()	小児看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
11	/ ()	母性看護学	検査・薬理を含めて疾病の治療と看護	
12	/ ()	地域・在宅看護論	問題事例に合わせた学習	
13	/ ()	統合	問題事例に合わせた学習	
14	/ ()	統合	問題事例に合わせた学習	
15	/ ()	テスト	国家試験に準じた時間と内容で評価する	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) : 系統看護学講座 専門基礎分野 専門分野 (医学書院)				
備考: 臨床経験を踏まえ、対象の状態を的確に判断する能力、看護援助の知識について教授する。				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学実習Ⅰ	実習	1年次前期	1単位／40時間	専任教員
目的:看護の対象と対象の療養生活の場を理解し、学内で学んだ知識・技術を用いて日常生活の援助を実践し、基礎的知識・技術・態度を習得する。				
目標:①看護の対象と看護の対象をとりまく環境および看護の役割を学ぶ ②患者と良好な人間関係を築くとともに、対象に必要な日常生活の援助を実践する。 ③看護師として必要な態度が理解できる				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
1. 関連施設を見学し、看護の対象を取り巻く環境を知る 2. 見学や実践をとおして看護師の役割を理解できる 1) 病院の構造、機能、 2) 病棟の構造、機能、組織 3) 医療チームメンバーの職種と役割、連携 4) 対象の環境と療養生活 5) 看護師の役割 6) 看護師として必要な態度				
履修者へのコメント:①実習の具体的な時期・方法などは実習要綱を配布しオリエンテーションします ②臨地実習に臨むまでに学内で必要な看護技術の練習をしておきましょう ③元気に実習に臨めるように体調に留意して日々を過ごしましょう				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎学概論 基礎看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学実習Ⅱ	実習	1年次後期	3単位／120時間	専任教員
目的:看護過程のプロセスを用いて看護過程の展開を受け持ち患者に適用し、対象の状態に応じた日常生活援助を実践する。				
目標:①対象を総合的に理解し、看護の必要性がわかる。 ②対象と良好な人間関係を築き、対象の疾病や障害によって生じた生活の変化が理解できる。 ③対象に必要な看護を計画し、対象に必要な療養環境の提供や生活行動への援助を実施し、評価・考察できる。				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
Ⅱ－1. 1. 看護の対象への援助をとおして日常生活環境への援助を理解できる ・対象の日常生活への援助 ・ 看護師の必要な態度 Ⅱ－2 1, 看護過程の展開 ・情報収集 ・アセスメント ・計画立案 ・実施 ・評価 2.看護記録類の記入 3.保健医療チームとの連携 4.看護師の必要な態度				
履修者へのコメント:①実習の具体的な時期・方法などは実習要綱を配布しオリエンテーションします ②臨地実習に臨むまでに学内で必要な看護技術の練習をしておきましょう ③元気に実習に臨めるように体調に留意して日々を過ごしましょう				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎学概論 基礎看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域の実習	実習	2年次後期	1単位／40時間	専任教員
目的:地域の生活状況を知り、地域の動向を知り、地域の課題を学ぶ。地域包括支援の実態を実習する。				
目標:①地域で生活している人々の地域での実態を役所や市民センター等を訪問して実態を知る。 ②地域の現状や課題を知る。 ③地域における看護の機能や役割を理解できる。 ④療養生活支援のために他職種との協働する看護師の役割が理解できる。 ⑤地域で生活している人との健康増進・疾病の予防について理解できる。 ⑥社会資源の種類および活用状況について理解する。				
評価方法： 実習評価表に準ずる				
1. 地域社会で生活する健康な高齢者のその人らしい姿を知る。 2. 地域フィールドワーク 5h×3日(市役所、健康センター、コミュニティセンター、保健センター等)幸手市・久喜市・加須市・春日部市・杉戸町 3. 地域包括支援センター3h×2日(ウエルス幸手) 4. 福祉用具展示場3h(すまいる館) 5. 小規模多機能型居宅介護施設 8h×2日 (さくら)				
履修者へのコメント:①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 在宅看護論				
使用テキスト： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 地域・在宅看護論 (医歯薬出版)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護論実習	実習	3年次前期	2単位／80時間	専任教員
目的:地域で療養している人々とその家族を理解し、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように援助するための基礎的な能力を養う。また、地域における看護の機能と役割について学ぶ				
目標:①地域で生活しながら療養する人々と家族の健康状態、生活状況について理解できる ②本人・家族の状況に応じた日常生活援助、診療の補助基本について理解できる ③他職種・関係機関との連携や社会資源の活用方法を実際場で理解する ④療養生活支援のために他職種との協働する看護師の役割が理解できる。 ⑤地域で生活している人との健康増進・疾病の予防について理解する。 ⑥社会資源の種類および活用状況について理解する。				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
訪問看護実習				
1. 在宅で生活する療養者とその家族について、在宅看護の機能と役割の実際を理解できる 2. 在宅で生活する療養者とその家族に配慮した行動がとれる 3. 在宅看護に必要な保健医療福祉チームについて理解できる 4. 社会資源の種類及び活用状況について理解できる 5. 訪問看護ステーションの管理・運営・活動について理解する				
保健センター(健康増進課)				
1. 地域住民を支える保健活動の実際を知り、地域における看護活動を理解する 2. 地域で生活している人々の健康増進・疾病の予防について理解する 3. 地域の特性と住民の健康問題について考えることができる 4. 地域看護に必要な保健医療福祉チームについて理解する 5. 通所介護利用者の特徴を理解し、自立支援について理解する 6. 通所介護利用者の身体的・精神的・社会的な特徴を理解する 7. 通所介護の果たす役割について理解する 8. 在宅療養に必要な保健医療福祉チームについて理解する				
包括支援センター				
1. 地域包括支援センターの機能・役割・活動、高齢者の権利擁護等について理解できる				
履修者へのコメント::①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 在宅看護論				
使用テキスト: 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

学科		第一学科		
授業科目名	内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人・老年看護学実習Ⅰ	実習	3年次前期・後期	3単位／120時間	専任教員
目的: 成人期から老年期にある対象を総合的に理解し、手術や救急等の危機的状況から回復過程にある対象を理解し、看護過程の展開を通して対象に必要な援助が実践できる能力を養う				
目標: ①生命の危機的状況にある患者と家族の特徴が理解できる ②手術室、集中治療室、救急救命における看護の実際が理解できる ③手術を受ける患者の特徴が理解できる ④手術当日までの看護が理解できる ⑤患者に起こりやすい問題が理解できる ⑥手術前後の患者の状態を考慮し、患者の望ましい状態について理解できる ⑦手術が良い状態で行なえるよう、心身の準備への援助ができる ⑧手術による諸問題を予測しながら手術後の回復への援助ができる				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
〈成人・老年看護学実習Ⅰ-1〉 生命の危機状況にある対象の看護(40時間) ・手術室・ICU(HCU)・救急救命室を見学し、生命にかかわる専門職の役割を学ぶ ・4日間の臨地実習後に学内での共有学習を行う 〈成人・老年看護学実習Ⅰ-2〉 急性期～回復期にある対象の看護(80時間) ・急性期にある患者(手術を受ける患者)を受け持つ ・急性期に必要な看護を考え援助計画に基づき看護を実践する ・回復に向けた看護～退院までの看護過程を展開する ※詳細は実習要綱参照				
履修者へのコメント: ・履修にあたっては次の科目単位が修得されていること 基礎分野 専門基礎分野 専門基礎分野Ⅰ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ ～Ⅴ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ ～Ⅲ				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

学科		第一学科		
授業科目名	内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人・老年看護学実習Ⅱ	実習	2年次後期	3単位／120時間	専任教員
目的: 成人期から老年期にある対象を総合的に理解し、健康障害をきたした対象が、生涯にわたり疾病をコントロールするためのセルフケア獲得に向けた看護を学ぶ				
目標: ①疾病をコントロールしながら生活していく患者と家族の特徴が理解できる ②患者・家族に起こりやすい問題が理解できる ③患者の状態を考慮し、望ましい状態について理解できる ④患者と家族がセルフケア能力を獲得できるための援助ができる ⑤保健・医療・福祉チームの中での看護の役割と、継続看護の必要性が理解できる ⑥終末期にある対象の全人的苦痛を理解し、その人らしい生活を全うするための患者・家族に対する援助を学ぶ				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
〈慢性期・終末期にある対象の看護〉(120時間) ・慢性期もしくは終末期にある患者を受け持ち、3週間にわたり看護過程を展開する ・他職種との連携場面の見学(カンファレンスの参加・理学療法士による家庭調査への同行など)をする ・慢性期、終末期の患者の看護を、グループ内で学びを共有する ※詳細は実習要綱を参照				
履修者へのコメント: 履修にあたっては次の科目単位が修得されていること 基礎分野 専門基礎分野 専門基礎分野Ⅰ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ ～ Ⅴ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ ～ Ⅲ				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

授業科目名の区分		第一学科		
授業科目名	内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学実習	実習	2年次後期	2単位／90時間	専任教員
目的: 地域や施設における高齢者との関わりを通して老年期の特徴を理解し、高齢者の持てる力に着眼した看護を実践する能力を養う。				
目標: ①地域社会で生活する健康な高齢者のその人らしい姿を理解する。 ②高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 ③高齢者生活を支える保健・医療・福祉の役割および連携について理解できる。 ④施設で生活している高齢者に適した日常生活の援助が理解できる。 ⑤高齢者の生活史や価値観を理解し、尊重した態度がとれる。				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
【介護老人保健施設】 1. 介護老人保健施設施設の概要を理解する 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する 3. 施設を見学し利用者と関わりを持つ(コミュニケーション) 4. 日常生活援助の見学と実施 5. 入所者の健康管理の見学 6. 日常業務、夜間対応、緊急時の対応、看護職・介護福祉士の役割と連携を理解できる 7. 短期入所、デイサービス、在宅看護支援センター等の見学				
【介護老人福祉施設】 1. 介護老人福祉施設の概要を理解する 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する 3. 介護老人福祉施設を見学し利用者と関わりを持つ(コミュニケーション) 4. 日常生活援助の見学と実施 5. 入所者の健康管理の見学 6. 日常業務、夜間対応、緊急時の対応、看護職・介護福祉士の役割と連携を理解できる 7. 短期入所、デイサービス、在宅看護支援センター等の見学				
【デイサービスセンター】 1. デイサービスの概要を理解する 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する 3. 利用者と関わりを持つ(コミュニケーション) 5. 体調確認、血圧測定の実施など必要なバイタルサイン測定実施 6. レクリエーション活動への参加 7. センター来所者との関わり、コミュニケーション				
【地域での高齢者の活動期状況を知る】 1. 高齢者へのインタビュー(校外実習)				
履修者へのコメント: ①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 老年看護学概論 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 老年看護学Ⅲ				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)				
備考: 臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

授業科目名の区分				
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ	実習	2年次後期 3年次前期・後期	2単位／80時間	専任教員
目的:子どもの特徴と成長発達を理解し、子どもと家族に対する看護実践を通して、健康障害をもつ子どもを全人的に捉える。さらに対象者とその家族が必要としている看護を行うための基礎的能力と技術・態度を養う。また、子どもと家族の生活の実際を通して、子どもの権利や最善の利益を守るための看護活動について理解できる。				
目標:①小児の発達段階に応じた援助のあり方を理解することができる。 ②保育園の社会的役割を理解できる。 ③健康障害が小児や家族の生活に及ぼす影響を理解し、小児に必要な看護を実践できる。 ④小児の発達段階と病状に応じたアセスメントできる。 ⑤小児の成長発達段階と病状に応じた看護技術が実践できる。 ⑥自己の看護観を養い、小児医療チームの一員としての看護師の役割を理解することができる。 ⑦医療チームの一員である自覚を持ち、看護学生としての責任を果たすことができる。				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
病院実習 1. 子どもとその家族を尊重した人間関係を築くことができる 2. 子どもの健康障害の程度、発達段階に適した安全管理が実践できる 3. 子どもとその家族に係る情報収集とアセスメントができる 4. 子どもの健康障害の程度、発達段階、自律性を考慮した看護実践ができる 5. 小児にかかわる看護専門職者としての基本的姿勢を理解し、保健医療チームの一員として行動できる				
外来実習 1. 小児外来の特徴と看護師の役割を理解し、子どもや家族の援助が理解できる				
保育園・施設実習 1. 子どもの形態・機能、心理・社会的特徴を理解できる 2. 子どもの発達段階(自立度)と自律性を考慮した基本的生活習慣(食事、清潔、衣服の着脱、排泄、睡眠・休息)の援助やしつけができる 3. 子どもの安全に配慮した行動(環境調整・健康状態の把握ほか)ができる 4. 子どもの発達段階に応じた遊びの実践ができる 5. 子どもの発達段階に適したコミュニケーション(ユーモアの活用)がとれる 6. 子どものさまざまな言動に対し、受容的態度がとれる 7. 子どもに対し教育的配慮のある言葉使い、行動、態度がとれる 8. 子どもとの関わりに適切な身だしなみや健康状態で実習できる				
履修者へのコメント:①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護① 小児看護②				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

学科	第一学科			
授業科目名	内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学実習	実習	2年次後期 3年次前期	2単位／80時間	専任教員
目的：①妊娠・分娩・産褥各期の母性および胎児、新生児の特徴を総合的に学び、母子や家族を対象に看護の必要性を理解し、看護を実施する能力を養う ②地域で暮らす様々な母性看護の対象を理解し、健康の維持・増進に向けた支援を学ぶことができる				
目標：①各ライフサイクルでの諸問題と、看護の必要性について理解出来る ②妊娠期の母児の健康状態を知り、妊娠期が正常に経過していることが理解できる ③分娩各期の経過から産婦の特徴を理解し、必要な看護がわかる ④褥婦が分娩の影響から回復し、心身の変化に適応していく過程を理解できる ⑤退院に向けての諸条件を整え、家族を含めた指導ができる ⑥母子に関わる諸制度と社会資源の活用方法が理解できる ⑦新生児が母体外生活に適応していく過程を理解できる ⑧生命の尊さがわかり、自己の母性感・父性感を深めることができる ⑨地域で暮らす対象の健康の維持・増進のために、多職種連携や支援内容を理解できる				
評価方法： 実習評価表に準ずる				
1. 妊婦・産婦・褥婦に特性について身体的・心理的・社会的側面から理解できる 2. 経膈分娩の産婦に必要な看護が理解できる 3. 帝王切開術を受ける産婦の看護が理解できる 4. 新生児看護の原則について理解できる 5. 新生児の特性について早期新生児の生理的特徴が理解できる 6. 対象把握に必要な情報を収集・整理できる 7. 情報により、対象の健康状態をウェルネス的看護視点でアセスメントすることができる 8. 具体的な援助方法を立案でき、立案した計画にそって実施できる 9. 実施した援助が対象に適切であったかを評価し、対象の状況に応じて修正できる 10. 産婦人科外来を受診する患者の看護を理解し、診察の補助を指導者とともに実施できる 11. 援助の目的・根拠・留意点を理解し、実施できる 12. 妊婦・産婦・褥婦・新生児へ安全・安楽に配慮した行動がとれる 13. プライバシーの保護・羞恥心への配慮ができる 14. 母性に関わる看護の役割について理解できる 15. 他職種との連携について理解できる 16. 各ライフステージにある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、継続看護の必要性や健康の維持・増進のために必要な保健指導内容が理解できる				
履修者へのコメント：①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 母性看護学概論 母性看護① 母性看護② 母性看護③				
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学②（医学書院） ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版				
備考：臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

授業科目名の区分				
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学実習	実習	3年次前期・後期	2単位／80時間	専任教員
目的:精神に障害を抱えた対象の生活や生き方について考え、対象を取り巻く環境や社会の役割について理解する。精神に障害を抱えた対象と家族の援助を実践する能力を養うとともに、相互関係の中で人間を尊重する態度を養う。				
目標:①精神に障害を抱えた対象及び家族の現状が理解できる。 ②精神に障害を抱えた対象や家族への援助方法を理解し、その一部を実践できる。 ③地域社会保健福祉活動の連携と看護の役割が理解できる。 ④自己と対象の関わりを振り返り相互関係について理解できる。 ⑤人間性を尊重し誠実な態度で対象に接することができる。				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
1. 受け持ち患者と行動をともし、言動、人とのつき合い方、過ごし方を通して生活力や困っていることを把握できる 2. 受け持ち患者の生活力や困ることを患者と共に確かめ合うことができる 3. 受け持ち患者が自分の病気をどのように受け止めているかを理解することができる 4. 発症の契機と入院に至った経緯を把握し、症状や病態、治療について理解することができる 5. 受け持ち患者の入院の理由を考えることができる 6. 受け持ち患者が将来についてどのようにしたいと思っているかを理解できる 7. 受け持ち患者の課題やニーズのついて考えることができる 8. 人間関係の基本技術を実施することができる 9. プロセスレコードを通して治療的環境と人間関係技術を振り返ることができる				
履修者へのコメント:①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目、精神看護概論 精神看護Ⅰ 精神看護Ⅱ 精神看護Ⅲ				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				

		第一学科		
授業科目名	内 訳	開講時期	単位／時間	担当教員
看護の統合と実践実習	実習	3年次前期・後期	3単位／120時間	専任教員
目的:病棟管理の実際を学び、チームの一員として看護を実践し、看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任を養う				
目標:①看護部の役割、病棟看護師長やチームリーダーの役割、病棟管理の実際、他部門との調整などの見学を通して看護管理の実際を学ぶ ②夜勤帯看護師の役割がわかる ③診療の補助技術を安全性、効率性を考えながら見学できる ④複数の患者の看護過程の展開を通して、ケアの優先度を判断しながら看護援助を実践できる ⑤統合実習で学んだことを通し、チームの一員として自己の目標を明確にするとともに自己研鑽する能力を養う ⑥後輩(1年生)の指導ができる。				
評価方法: 実習評価表に準ずる				
1. 病院・病棟における看護管理の実際の見学を通して、看護管理について理解する 2. 管理者・リーダーから夜勤帯看護師の役割、看護師の配慮や患者の変化等の説明を受けることで夜間業務に対するイメージができる 3. 複数課題の優先順位を科学的根拠に基づいて判断し、看護を実践する 4. 受け持ち患者の状況に応じて援助の優先に応じたチーム内調整ができる 5. 複数患者を受け持ちケアの優先度を判断しながら行動計画を立案し援助を行うことができる 6. 患者の安全・安楽・自立を考慮した看護ができる 7. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解する				
履修者へのコメント:①次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 1年次・2年次・3年次の学習すべて				
使用テキスト: 1年次・2年次・3年次のテキストすべて (医学書院)				
備考:臨床経験・教育経験を踏まえ、看護技術の概要・観察・技術の実際を教授する				